

授 業 概 要

科目名	キャリアプランニング3	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	有) 両国あんこあられ本舗 岩佐 浩之		
サブ科目名		学年	2年	授業 形態	講義	総単位数	2 単位	総時間数	30 時間
学科・専攻	ITソーシャルワーカー科								
【授業を通じての到達目標】									
<p>様々な情報を取り、自分の頭で考え、整理し決断できるようになる。 コミュニケーションの柱である、常識・マナー・社会のルールを身に付け実践できるようになる。 自分自身を社会に出て、マーケティングできるようになる。</p>									
【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する)									
<p>流通業界では様々な仕入れ販売の経営経験を持ち、一部上場企業メーカー勤務では、製造から営業経験をし、現在3社を経営するオーナーが教える、社会人としての考え方目標設定の仕方、達成の仕方・人脈の作り方を講義します。 ビジネスだけでなく、個人として必要な生きる力をわかりやすく講義します。また、カウンセラーとして精神的健康の維持・心が壊れない考え方・自分との付き合い方・1対1のコミュニケーション心理・縦の人間関係のコミュニケーションの考え方をわかりやすく講義します。</p>									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
毎回授業の際、資料を配布					世の中の疑問点を探し質問する				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	<p>【授業単元】 オリエンテーション 授業の注意事項</p> <p>【到達目標】 講師自己紹介(注意するコンフォートゾーンを知る) 前期の流れを解説し、前期終了後の自分の姿をイメージする。 各単元の内容の予告編から、内容をイメージし授業に備える。</p>				9	<p>【授業単元】 マーケティング①</p> <p>【到達目標】 自分という人間を、社会の中で、どうマーケティングするか、マーケティングの仕組みを学び、活用できるようになる。 マーケティング方程式・バリュウプロポジション・キャズム理論などを学びイメージを膨らませる。</p>			
2	<p>【授業単元】 基礎編: 求人票の見方・収入の種類・お金の知識</p> <p>【到達目標】 基本給・社会保障・税金・福利厚生などの関係を理解し、求人票を正しく理解できるようになる。 収入・お金の知識を身に付け、自らの生活を計画的に・安定的に運れるようになる。</p>				10	<p>【授業単元】 マーケティング②</p> <p>【到達目標】 自分という人間を、社会の中で、どうマーケティングするか、マーケティングの仕組みを学び、活用できるようになる。 マイケルポータのファイブフォースを学び、マーケティングの仕組みを知る。</p>			
3	<p>【授業単元】 基礎編: 税金・カード・ポイント・仮想通貨・デジタル通貨・現金・金融商品</p> <p>【到達目標】 お金にまつわる知識を身に付け、収入・財産が守れるようになる。 (相続・根抵当・ブロックチェーンなど)</p>				11	<p>【授業単元】 マーケティング③</p> <p>【到達目標】 自分という人間を、社会の中で、どうマーケティングするか、マーケティングの仕組みを学び、活用できるようになる。 マーケティングの考え方を学び、理解し、使えるようになる。</p>			
4	<p>【授業単元】 基礎編: 目的・目標</p> <p>【到達目標】 目的とは何か・目標とは何かを理解し、設定できるようになる。 トータルパスンについて学び理解する。</p>				12	<p>【授業単元】 世の中 身を守るために知っておきたい法律について学ぶ</p> <p>【到達目標】 浴びせられる情報を整理して、自分の頭で考える力を身に着ける。 契約自由の原則・刑法について学び理解する。</p>			
5	<p>【授業単元】 基礎編: 人脈</p> <p>【到達目標】 人脈がなぜ必要かを学び、人脈の整理の仕方・作り方を知る。 実際に経理をしてみる。</p>				13	<p>【授業単元】 ①一軒の家庭に何を援助するか書き出してみる ②車いすの、祖父を連れて、温泉旅行に行くプランを立てる</p> <p>【到達目標】 ①認知症・アルコール依存症・うつ病・統合失調症・いじめ・リュウマチ子宮がんの家庭にアドバイスをする。 ②電車・車・バリアフリー・温泉旅館・観光地・その他あらゆる情報を取りプランを立ててください。</p>			
6	<p>【授業単元】 基礎編: 自分とのコミュニケーション・1対1のコミュニケーション組織でのコミュニケーション</p> <p>【到達目標】 自己覚知(自分の心のクセを知る)自己分析をしてみる。</p>				14	<p>【授業単元】 復習</p> <p>【到達目標】 1回から13回までの復習と調整 定期試験のポイントを開設する。</p>			
7	<p>【授業単元】 情報源・行動する・決断・習慣と潜在意識</p> <p>【到達目標】 行動のもとになる情報分析力を身に着ける。 行動とは何かを知る。行動習慣のくせやそこから起こる現象を知る。 潜在意識の大切さを知り、活用できるようになる。</p>				15	<p>【授業単元】 定期試験 振り返り</p> <p>【到達目標】 1回～14回までの、授業理解度の確認 自分の考えを書く、答えの無い試験問題です。</p>			
8	<p>【授業単元】 中テスト</p> <p>【到達目標】 1回～7回までの知識の確認</p>				<p>【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、授業評価(平素の学習状況・出席状況など)を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 試験は筆記試験で行う。</p>				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
1コマ1コマの授業は、ジグソーパズルの1ピースのようなものです。休むことなく完成させてください。また、休んだ場合は友人に授業内容を確認して補ってください。									

授 業 概 要

科目名	キャリアプランニング3	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	有) 両国あんこあられ本舗 岩佐 浩之		
サブ科目名		学年	2年	授業 形態	講義	総単位数	2 単位	総時間数	30 時間
学科・専攻	IT医療ソーシャルワーカー科								
【授業を通じての到達目標】									
<p>様々な情報をとり、自分の頭で考え、整理し決断できるようになる。 コミュニケーションの柱である、常識・マナー・社会のルールを身に付け実践できるようになる。 自分自身を社会に出て、マーケティングできるようになる。</p>									
【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する)									
<p>流通業界では様々な仕入れ販売の経営経験を持ち、一部上場企業メーカー勤務では、製造から営業経験をし、現在3社を経営するオーナーが教える、社会人としての考え方目標設定の仕方、達成の仕方・人脈の作り方を講義します。 ビジネスだけでなく、個人として必要な生きる力をわかりやすく講義します。また、カウンセラーとして精神的健康の維持・心が壊れない考え方・自分との付き合い方・1対1のコミュニケーション心理・縦の人間関係のコミュニケーションの考え方をわかりやすく講義します。</p>									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
毎回授業の際、資料を配布					世の中の疑問点を探し質問する				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション				9	【授業単元】 中テスト			
	【到達目標】 後期15回の流れの説明と到達地点の確認をイメージする。 各コマの予告編					【到達目標】 1回から8回までの復習と調整 中テストによる理解度のチェックをします。			
2	【授業単元】 就職してから必要な知識を身に着ける				10	【授業単元】 お金・税金・インボイス制度			
	【到達目標】 しきたり・マナー・ルール					【到達目標】 経費について学び理解する。			
3	【授業単元】 就職してから必要な知識を身に着ける				11	【授業単元】 ライフプラン			
	【到達目標】 様々な職業の特徴					【到達目標】 ライフプランを実際に立てて将来をイメージし書き出す。 相続・根拠について知る。			
4	【授業単元】 就職してから必要な知識を身に着ける				12	【授業単元】 考え方 7つの習慣			
	【到達目標】 アイトリングビジネスを学び理解し戦略戦略が立てられる。 顧客は、お金を出して何を買っているのかを学び、戦略戦略が立てられる。 らしさを分析する。					【到達目標】 ①主体性を発揮する ②目的を持って始める ③重要事項を優先する			
5	【授業単元】 手紙・はがき・敬語・尊敬語・丁寧語・クッション言葉				13	【授業単元】 考え方 7つの習慣			
	【到達目標】 挨拶文・御礼文のルールを学び、書けるようになる。敬語・尊敬語・丁寧語・クッション言葉を学び、使いこなせるようになった。 会話にオーラのある人の生き方を学び習得する。					【到達目標】 7つの習慣 ④Win-Winを考える ⑤理解してから理解される ⑥相乗効果を発揮する ⑦刃を研ぐ			
6	【授業単元】 履歴書				14	【授業単元】 復習			
	【到達目標】 履歴書のルールを学ぶ 自己覚知する。自分の長所を文章にして書き出す。					【到達目標】 1回から13回までの復習と調整 定期試験のポイントを開設する。			
7	【授業単元】 履歴書				15	【授業単元】 定期試験 振り返り			
	【到達目標】 自分のセールスポイントを、原稿用紙に書き出す。					【到達目標】 1回～14回までの、授業理解度の確認 自分の考えを書く、答えの無い試験問題です。			
8	【授業単元】 経営者の仕事				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 経営者の仕事について学ぶ。 世の中の、しきたりについて学び理解する。				講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、授業評価(平素の学習状況・出席状況など)を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 試験は筆記試験で行う。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
1コマ1コマの授業は、ジグソーパズルの1ピースのようなものです。休むことなく完成させてください。また、休んだ場合は友人に授業内容を確認して補ってください。									

授 業 概 要

科目名	チャレンジプログラム2	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年	担当 教員	安部 直美		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	5 単位	総時間数	150 時間
【授業を通じての到達目標】									
地域における社会福祉・精神保健福祉領域の多様な対象の支援に必要な基礎を、講義・演習科目と福祉現場体験を通して身につける。 2月の「ソーシャルワーク実習(社会)」(60時間)、3年次の「ソーシャルワーク実習(社会)」(180時間)の学びを補完、強化するオリジナルプログラムとして行う。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
福祉専門職育成に携わる教員が、当プログラムの目的及び実習に関する基本的なマナーについて指導をする。合わせて、各事業所における現場職員が、実習機会を提供し、利用者理解と事業所理解に資する技術・知識について指導を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
適宜資料を配布するとともに、各自の取り組む内容に関連するWEBサイトや教科書を参照すること。					実習内容の振り返りとともに、関連する内容についての主体的な調べ学習やボランティアの参加を要する。				
授業計画									
<p>社会福祉・精神保健福祉領域に特化した施設実習プログラム</p> <p>1年次授業で学んだ知識・技術を、その実習先において必要な援助に変換して実践する。(スペシフィックソーシャルワークの実践)</p> <p>★ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別支援計画を立案する力につなげるコミュニケーション力の強化 ・「ソーシャルワーク実習(社会)」に向けた記録のトレーニング <p>★取り組む内容</p> <p>基本的なコミュニケーション／人間形成／利用者理解</p> <p>★プログラム内容</p> <p>社会福祉・精神保健福祉分野等の協力施設での現場体験(実習)</p> <p>★実施日程</p> <p>原則前期:水曜日 後期:木曜日 ※前・後期は異なる事業所 ※後期は、前期内容を踏まえた上で、精神保健福祉領域や各施設の抱えている課題を自発的に発見し、その課題を解決する考え方・姿勢を持ち、限られた時間内にて最善の解決方法を模索する。</p> <p>活動を通した振り返り・活動報告会</p> <p>事業所実習プログラムで取り組んだ内容については、後期終了時に活動報告会にてプレゼンテーションを行う。</p>									
【履修に当たっての心構え・留意点】					【成績評価の方法と基準】				
実習時には感染症予防等もふまえ、体調管理に留意する必要がある。 また、主体的な姿勢で課題解決に臨む姿勢を求める。					日誌及び活動報告会のプレゼンテーション及び個人の振り返りを60点、平常の学習状況・学習意欲を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。				

授 業 概 要

科目名	国際教育	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	学科教員				
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1	単位	総時間数	30	時間
【授業を通じての到達目標】											
IT・地域医療に関する海外の先進技術や展開事例についての理解するとともに、文化的背景の異なる地域におけるソーシャルワークの実際について理解を深める											
【学習内容】（どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
学科教員が、海外のソーシャルワーカーの役割や日本と異なる文化や歴史的な背景を踏まえて、ソーシャルワーカーの実際を理解できる授業を通して、ソーシャルワーカーの可能性を感じる											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
授業内の配布資料						予習・復習を授業ごとに実施する					
授業計画											
<ul style="list-style-type: none"> ①現場見学やレクチャーを通して、多様なアプローチ方法を学ぶ ②海外の医療と連携し、生活課題に対応した支援 ③福祉を学ぶ学生との交流を通し、異文化コミュニケーションを体験的に学ぶ ④多くの専門職が関わる施設の実際 ⑤文化・伝統・歴史等に触れながら、国際的な感性を養う ⑥福祉・医療の海外の実際 											
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】					
ソーシャルワーカーの役割の違いや文化・歴史的な背景などの違いなど広い視野を持って臨む						授業内の小テスト（課題）の結果をふまえ、A～Fの6段階で評価する。					

授 業 概 要

科目名	システムサービスマネジメント	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	中山 圭太郎		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	2年	授業 形態	講義	総単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
顧客のニーズに合致した適切なITサービスを提供するための、マネジメントの全体像や具体的な業務を学ぶ。									
【学習内容】									
基本的なアプリケーションから実用的なアプリケーションまで、システムサービス管理を包括的に理解できるようになる。システムサービス管理に関わる業務に従事するために必要な知識とスキルを身につける。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
使用教科書は特になしとする。実践的に用いるシステムサービスマネジメントツールのマニュアル・webサイトを参考にする。					校外の事業者の連携し、プロジェクトテーマを設定し活動する。校外で開催されるコンテストイベントまたはハッカソンイベントにエントリーし、作品開発を行う。その際、システムサービスマネジメントの考え方を取り入れて活動する。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 システムサービスマネジメントの概要				9	【授業単元】 サービスレベルマネジメント			
	【到達目標】 システムサービスマネジメントとは何か、その役割や目的について学ぶ。					【到達目標】 サービスレベルマネジメントの概要、サービスレベル契約の作成方法、サービスレベルの監視について学ぶ。			
2	【授業単元】 システム開発ライフサイクル				10	【授業単元】 インシデントマネジメント・問題管理			
	【到達目標】 システム開発のライフサイクルについて学び、各段階でのマネジメントの方法について学ぶ。					【到達目標】 インシデントマネジメントの概要、インシデントの分類、インシデントの通知、復旧、報告などについて学ぶ。問題管理の概要、問題の特定、分類、調査、解決、回避、監視について学ぶ。			
3	【授業単元】 システム監視				11	【授業単元】 変更管理			
	【到達目標】 システム監視の概要、ツール、監視データの分析方法について学ぶ。					【到達目標】 変更管理の概要、変更の申請、承認、実施、評価、報告、監視について学ぶ。			
4	【授業単元】 ログ解析				12	【授業単元】 リリース管理			
	【到達目標】 ログ解析の方法、ログ分析ツールの使い方、ログ解析のためのデータ分析技術について学ぶ。					【到達目標】 リリース管理の概要、リリースの計画、実施、評価、報告について学ぶ。			
5	【授業単元】 システムセキュリティ				13	【授業単元】 コンフィギュレーションマネジメント			
	【到達目標】 システムセキュリティについて学び、脆弱性の発見や脅威の分析、セキュリティポリシーの策定方法について学ぶ。					【到達目標】 コンフィギュレーションマネジメントの概要、構成アイテムの管理、バージョン管理、変更の追跡、レビューについて学ぶ。			
6	【授業単元】 パフォーマンスチューニング				14	【授業単元】 ベンダーマネジメント・システムサービスマネジメントの実践			
	【到達目標】 システムパフォーマンスのチューニング、ボトルネックの解消、キャッシュの最適化、パフォーマンステストの方法について学ぶ。					【到達目標】 アウトソーシングにおけるベンダーマネジメントの概要、ベンダー選定、契約交渉、ベンダー管理について学ぶ。システムサービスマネジメントの実践事例や成功事例、失敗事例、課題解決方法について学ぶ。			
7	【授業単元】 システムバックアップと復旧				15	【授業単元】 振り廻り 定期テスト(60点)			
	【到達目標】 システムバックアップと復旧の方法、バックアップストレージの管理、災害復旧計画の作成について学ぶ。					【到達目標】 これまで学んだ知識・技術を活かし、医療福祉分野の課題を設定・検討し、システムサービスマネジメントの視点でシステムの設計・開発をする。第14回までの授業内容を理解する。			
8	【授業単元】 中テスト				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点として、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点で段階(A～F)で評価する。 各テストはCBT方式(Computer Based Testing、Teams Forms[による試験])を基本とするが、該当授業単元の成果物制作・発表・実技試験をもって相当の評価をすることがある。 小テストは5点満点とし、合計13回行う。中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。小テストと中テストの合計点(80点満点)の1/2(小数点以下切り上げ)を講義全体に占める小テストの点数とする。				
	【到達目標】 これまで学んだ知識・技術を活かし、医療福祉分野の課題を設定・検討し、システムサービスマネジメントの視点でアプリケーションソフトを構築する。その際、指定のクラウドサービスまたはパッケージソフトを用いて開発する。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
システムサービスマネジメントを運営する組織や担当者をロールプレイングして、取り組む。									

授 業 概 要

科目名	ディープラーニングの概要と手法		必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	中山 圭太郎		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科		学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】										
ディープラーニングの基礎知識を有し、適切な活用方針を決定して、事業活用する能力や知識を身に付けます。										
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)										
ディープラーニングの基礎知識から、具体的な手法や実践的な活用方法までを、実際にリリースされているAIサービスを用いて行ない、理論と実践の両面から理解を深める。教材ツールとして、Neural Network Console、MatrixFlow、Auto ML、Azure Machine Learning Studio、IBM Watson、WRTN他を活用する。										
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】					
Neural Network Console、MatrixFlow、Auto ML、Azure Machine Learning Studio、IBM Watson、WRTNを利用する。これらツールは、機能や価格等の条件で見直すことがある。その他 AIの業界動向をウォッチして、リリースされる新しいツールを採用することがある。					校外で開催されるデジタル関連コンテストイベントにエントリーし、ディープラーニングを活用した作品開発を行う。(出場するコンテストの候補として、Linked Open Data チャレンジ、アーバンデータチャレンジ、チャレンジ!!オープンガバナンス)					
コマ	授業計画				コマ	授業計画				
1	【授業単元】 ディープラーニングの基礎				9	【授業単元】 ディープラーニングの実践2				
	【到達目標】 ディープラーニングとは何か、ニューラルネットワークの仕組みについて理解する。					【到達目標】 MatrixFlowの概要と特徴、プログラミング不要のAI構築、数値予測タスクの実装を行う。				
2	【授業単元】 ディープラーニングの主要手法1				10	【授業単元】 ディープラーニングの実践3				
	【到達目標】 畳み込みニューラルネットワーク(CNN)、画像認識への応用について理解する。					【到達目標】 Auto MLの概要と特徴、自動モデル構築と最適化、分類タスクの自動化を実装する。				
3	【授業単元】 ディープラーニングの主要手法2				11	【授業単元】 ディープラーニングの実践4				
	【到達目標】 再帰型ニューラルネットワーク(RNN)、時系列データ処理への応用、RNNの構造と系列データ処理の仕組みについて理解する。					【到達目標】 Azure Machine Learning Studioの概要、機械学習パイプラインの構築、自然言語処理タスクを実装する。				
4	【授業単元】 ディープラーニングの主要手法3				12	【授業単元】 ディープラーニングの実践5				
	【到達目標】 自己符号化器(Autoencoder)、次元圧縮と特徴抽出への応用について理解する。					【到達目標】 IBM Watsonの概要と特徴、対話システムの構築、画像認識タスクを実装する。				
5	【授業単元】 ディープラーニングの主要手法4				13	【授業単元】 ディープラーニングの応用と課題				
	【到達目標】 生成的adversarial ネットワーク(GAN)、画像生成や変換への応用について理解する。					【到達目標】 ディープラーニングの応用分野、倫理的な課題と対策、実世界への適用における留意点について検討・議論する。				
6	【授業単元】 ディープラーニングの主要手法5				14	【授業単元】 ディープラーニングの発展				
	【到達目標】 自然言語処理への応用、言語モデルと系列変換タスクについて理解する。					【到達目標】 ディープラーニングの発展的活用するよう、社会問題やほかの教科の課題に連携して取り組めるようについて検討・議論する。				
7	【授業単元】 ディープラーニングの実践1				15	【授業単元】 これまでの振り返り 定期試験(60点)				
	【到達目標】 Neural Network Consoleの概要と特徴、GUIベースのモデル構築と学習、画像分類タスクの実装を行う。					【到達目標】 第14回までの授業内容を理解できている。				
8	【授業単元】 中テスト				【成績評価の方法と基準】					
	【到達目標】 AIツールを用いて				講義全体を100点として、定期テストを80点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点で段階(A~F)で評価する。 小テストおよび中テストはCBT方式(Computer Based Testing、Teams Forms)による試験)で行う。 小テストは5点満点とし、合計13回行う。中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。小テストと中テストの合計点(80点満点)の1/2(小数点以下切り上げ)を講義全体に占める小テストの点数とする。小テスト・中テストは該当授業単元の成果物・発表をもって代替して評価することがある。					
【履修に当たっての心構え・留意点】										
社会福祉分野の課題をAIを活用して、探求することを期待します。探求の過程で、必要な情報テクノロジーを会得していきます。										

授業概要

科目名	ディープラーニングの概要と手法	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	中山 圭太郎		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	4 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】									
ディープラーニングの基礎知識を有し、適切な活用方針を決定して、事業活用する能力や知識を身に付けます。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
ディープラーニングの基礎知識から、具体的な手法や実践的な活用方法までを、実際にリリースされているAIサービスを用いて行ない、理論と実践の両面から理解を深める。これまでの基礎知識を踏まえて、ディープラーニングの主要な手法を詳しく学習する。教材ツールとして、Neural Network Console、MatrixFlow、Auto ML、Azure Machine Learning Studio、IBM Watson、WRTN他を活用する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
Neural Network Console、MatrixFlow、Auto ML、Azure Machine Learning Studio、IBM Watson、WRTNを利用する。これらツールは、機能や価格等の条件で見直すことがある。その他 AIの業界動向をウォッチして、リリースされる新しいツールを採用することがある。					校外で開催されるデジタル関連コンテストイベントにエントリーし、ディープラーニングを活用した作品開発を行う。(出場するコンテストの候補として、Linked Open Data チャレンジ、アーバンデータチャレンジ、都知事杯オープンデータ・ハッカソン)				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 ディープラーニングの基礎復習				17	【授業単元】 ディープラーニングの実践2			
2	【到達目標】 ディープラーニングの基本概念の復習、ニューラルネットワークの仕組みと特徴				18	【到達目標】 MatrixFlowの概要と特徴、プログラミング不要のAI構築、数値予測タスクの実装を行う。			
3	【授業単元】 ディープラーニングの主要手法1				19	【授業単元】 ディープラーニングの実践3			
4	【到達目標】 畳み込みニューラルネットワーク(CNN)の構造と特徴抽出の仕組み、画像認識への応用例を実装する。CNNの発展系について学ぶ。				20	【到達目標】 Auto MLの概要と特徴、自動モデル構築と最適化、分類タスクの自動化を実装する。			
5	【授業単元】 ディープラーニングの主要手法2				21	【授業単元】 ディープラーニングの実践4			
6	【到達目標】 再帰型ニューラルネットワーク(RNN)、時系列データ処理への応用、RNNの構造と系列データ処理例を実装する。改良型RNNについて学ぶ。				22	【到達目標】 Azure Machine Learning Studioの概要、機械学習パイプラインの構築、自然言語処理タスクを実装する。			
7	【授業単元】 ディープラーニングの主要手法3				23	【授業単元】 ディープラーニングの実践5			
8	【到達目標】 自己符号化器(Autoencoder)、次元圧縮と特徴抽出への応用例を実装する。				24	【到達目標】 IBM Watsonの概要と特徴、対話システムの構築、画像認識タスクを実装をする。			
9	【授業単元】 ディープラーニングの主要手法4				25	【授業単元】 ディープラーニングの応用と課題			
10	【到達目標】 生成的adversarial ネットワーク(GAN)、画像生成や変換への応用例を実装する。				26	【達成目標】 ディープラーニングの応用分野、倫理的な課題と対策、実世界への適用における留意点について検討・議論する。			
11	【授業単元】 ディープラーニングの主要手法5				27	【授業単元】 ディープラーニングの展望			
12	【到達目標】 自然言語処理への応用、言語モデルと系列変換タスクについて実装する。				28	【到達目標】 ディープラーニングの発展的活用するよう、社会問題やほかの教科の課題に連携して取り組む内容について検討・議論する。			
13	【授業単元】 ディープラーニングの実践1				29	【授業単元】 これまでの振り返り 定期試験(60点)			
14	【到達目標】 Neural Network Consoleの概要と特徴、GUIベースのモデル構築と学習、画像分類タスクの実装を行う。				30	【到達目標】 第14回までの授業内容を理解できている。			
15	【授業単元】 中テスト				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点として、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点で段階(A～F)で評価する。 各テストはCBT方式(Computer Based Testing、Teams Formsによる試験)を基本とするが、該当授業単元の成果物制作・発表・実技試験をもって相当の評価をすることがある。 小テストは5点満点とし、合計13回行う。中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。小テストと中テストの合計点(80点満点)の1/2(小数点以下切り上げ)を講義全体に占める小テストの点数とする。				
16	【到達目標】 出題される課題に対して、各種のAIツールを用いて、回答を導き出す。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
社会福祉分野の課題をAIを活用して、探求することを期待します。探求の過程で、必要な情報テクノロジーを会得していきます。									

授 業 概 要

科目名	ソフトウェア・ハードウェア応用技術	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	中山 圭太郎		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
ITを活用したサービス、製品、システムおよびソフトウェアを作る人材に必要な基本的知識・技能をもち、実践的な活用能力を身に付ける。									
① 組織および社会の課題に対する、ITを活用した戦略の立案、システムの企画・要件定義に参加する。									
② システムの設計・開発、汎用製品の最適組合せ(インテグレーション)によって、利用者にとって価値の高いシステムを構築する。									
③ サービスの安定的な運用の実現に貢献する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
基本情報処理技術者試験を通じて、ITを活用した戦略の立案、システムの企画・要件定義、設計・開発・運用に関し、知識・技能を身に付ける。また、各人がそれぞれ担当するプロジェクトテーマを設定する。プロジェクトテーマを題材にして、データやアプリケーション等デジタル成果物を開発する実技で用い、理解を深める。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
、『情報処理技術者試験 試験要綱・シラバス(Ver.5.3、2024年10月の試験から適用)』を参考にする。					校外の事業者の連携し、プロジェクトテーマを設定し活動する。校外で開催されるコンテストイベントまたはハッカソンイベントにエントリーし、作品開発を行う。(出場するコンテストの候補として、Linked Open Data チャレンジ、アーバンデータチャレンジ、都知事杯オープンデータ・ハッカソン)				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 基礎理論(1)				9	【授業単元】 基礎理論(2)			
	【到達目標】 離散数学、応用数学、情報に関する理論に関する理論について理解する。					【到達目標】 通信に関する理論、計測・制御に関する理論について理解する。			
2	【授業単元】 アルゴリズムとプログラミング(1)				10	【授業単元】 アルゴリズムとプログラミング(1)			
	【到達目標】 データ構造、アルゴリズム、プログラミングについて理解する。					【到達目標】 プログラム言語、その他の言語について理解する。			
3	【授業単元】 コンピュータの構成要素(1)				11	【授業単元】 コンピュータの構成要素(3)			
	【到達目標】 プロセッサ、メモリ、バスについて理解する。					【到達目標】 システムの構成、システムの評価指標について理解する。			
4	【授業単元】 システムの構成要素(2)				12	【授業単元】 ソフトウェア(2)			
	【到達目標】 入出力デバイス、入出力装置について理解する。					【到達目標】 開発ツール、オープンソースソフトウェアについて理解する。			
5	【授業単元】 ソフトウェア(1)				13	【授業単元】 ハードウェア(2)			
	【到達目標】 オペレーティングシステム、ミドルウェア、ファイルシステムについて理解する。					【到達目標】 ハードウェア(論理設計、構成部品)について理解する。			
6	【授業単元】 ハードウェア(1)				14	【授業単元】 ユーザーインターフェース(2)			
	【到達目標】 ハードウェア(電気・電子回路、機械・制御)について理解する。					【到達目標】 UX/UIデザインについて理解する。			
7	【授業単元】 ユーザーインターフェース(1)				15	【授業単元】 これまでの振り返り 定期試験(60点)			
	【到達目標】 ユーザーインターフェース技術について理解する。					【到達目標】 第14回までの授業内容を理解できている。			
8	【授業単元】 中テスト				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 これまで学んだ知識・技術を活かし、ソフトウェア・ハードウェアを含むシステム設計を行う。				講義全体を100点として、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点で段階(A~F)で評価する。 各テストはCBT方式(Computer Based Testing、Teams Formsによる試験)を基本とするが、該当授業単元の成果物制作・発表・実技試験をもって相当の評価をすることがある。 小テストは5点満点とし、合計13回行う。中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。小テストと中テストの合計点(80点満点)の1/2(小数点以下切り上げ)を講義全体に占める小テストの点数とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
社会福祉分野の課題に対し、ソフトウェア・ハードウェア応用技術を用いて探求することを期待します。探求の過程で、必要な情報テクノロジーを会得していきます。									

授 業 概 要

科目名	データベースとネットワーク・セキュリティ応用技術	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	中山 圭太郎		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
ITを活用したサービス、製品、システムおよびソフトウェアを作る人材に必要な基本的知識・技能をもち、実践的な活用能力を身に付ける。									
① 組織および社会の課題に対する、ITを活用した戦略の立案、システムの企画・要件定義に参加する。									
② システムの設計・開発、汎用製品の最適組合せ(インテグレーション)によって、利用者にとって価値の高いシステムを構築する。									
③ サービスの安定的な運用の実現に貢献する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
基本情報処理技術者試験を通じて、ITを活用した戦略の立案、システムの企画・要件定義、設計・開発・運用に関し、知識・技能を身に付ける。また、各人がそれぞれ担当するプロジェクトテーマを設定する。プロジェクトテーマを題材にして、データやアプリケーション等デジタル成果物を開発する実技で用い、理解を深める。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
、『情報処理技術者試験 試験要綱・シラバス(Ver.5.3、2024年10月の試験から適用)』を参考にする。					校外の事業者の連携し、プロジェクトテーマを設定し活動する。校外で開催されるコンテストイベントまたはハッカソンイベントにエントリーし、作品開発を行う。(出場するコンテストの候補として、Linked Open Data チャレンジ、アーバンデータチャレンジ、都知事杯オープンデータ・ハッカソン)				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 基礎理論(1)	【到達目標】 離散数学、応用数学について理解する。			9	【授業単元】 基礎理論(2)	【到達目標】 情報に関する理論、通信に関する理論、計測・制御に関する理論について理解する。		
	【授業単元】 情報メディア(1)					【授業単元】 情報メディア(2)			
2	【授業単元】 ネットワーク(1)	【到達目標】 マルチメディア技術について理解する。			10	【授業単元】 マルチメディア(1)	【到達目標】 マルチメディア応用について理解する。		
	【授業単元】 データベース(1)					【授業単元】 データベース(2)			
3	【授業単元】 データベース(1)	【到達目標】 データベース方式、データベース設計、データ操作、トランザクション処理について理解する。			11	【授業単元】 データベース(2)	【到達目標】 データベース応用について理解する。		
	【授業単元】 ネットワーク(1)					【授業単元】 ネットワーク(2)			
4	【授業単元】 ネットワーク(1)	【到達目標】 ネットワーク方式、データ通信と制御、通信プロトコルについて理解する。			12	【授業単元】 ネットワーク(2)	【到達目標】 ネットワーク管理、ネットワーク応用について理解する。		
	【授業単元】 セキュリティ(1)					【授業単元】 セキュリティ(2)			
5	【授業単元】 セキュリティ(1)	【到達目標】 情報セキュリティ、情報セキュリティ管理について理解する。			13	【授業単元】 セキュリティ(2)	【到達目標】 セキュリティ技術評価、情報セキュリティ対策、セキュリティ実装技術について理解する。		
	【授業単元】 システム開発技術(1)					【授業単元】 システム開発技術(2)			
6	【授業単元】 システム開発技術(1)	【到達目標】 システム要件定義・ソフトウェア要件定義、設計、実装・構築について理解する。			14	【授業単元】 システム開発技術(2)	【到達目標】 統合・テスト、導入・受入れ支援、保守・廃棄について理解する。		
	【授業単元】 情報関連法規およびビジネス知識					【授業単元】 これまでの振り返り 定期試験(60点)			
7	【授業単元】 情報関連法規およびビジネス知識	【到達目標】 企業活動(経営・組織論、業務分析・データ活用、会計・財務)、法務(知的財産権、セキュリティ関連法規、労働関連・取引関連法規、その他の法律・ガイドライン・技術者倫理、標準化関連)について理解する。			15	【授業単元】 これまでの振り返り 定期試験(60点)	【到達目標】 第14回までの授業内容を理解できている。		
	【授業単元】 中テスト					【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点として、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点で段階(A~F)で評価する。 各テストはCBT方式(Computer Based Testing、Teams Formsによる試験)を基本とするが、該当授業単元の成果物制作・発表・実技試験をもって相当の評価をすることがある。 小テストは5点満点とし、合計13回行う。中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。小テストと中テストの合計点(80点満点)の1/2(小数点以下切り上げ)を講義全体に占める小テストの点数とする。			
8	【授業単元】 中テスト	【到達目標】 これまで学んだ知識・技術を活かしデータベースとネットワーク・セキュリティを含むシステム設計を行う。			15	【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点として、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点で段階(A~F)で評価する。 各テストはCBT方式(Computer Based Testing、Teams Formsによる試験)を基本とするが、該当授業単元の成果物制作・発表・実技試験をもって相当の評価をすることがある。 小テストは5点満点とし、合計13回行う。中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。小テストと中テストの合計点(80点満点)の1/2(小数点以下切り上げ)を講義全体に占める小テストの点数とする。			
	【履修に当たっての心構え・留意点】 社会福祉分野の課題に対し、データベースとネットワーク・セキュリティ応用技術を用いて探求することを期待します。探求の過程で、必要な情報テクノロジーを会得していきます。								

授 業 概 要

科目名	アルゴリズム応用技術	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期集中	担当 教員	中山 圭太郎		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
ITを活用したサービス、製品、システムおよびソフトウェアを作る人材に必要な応用的知識・技能を身に付ける。以下を業務を独力で実行する能力を身に付ける。 ① 組織及び社会の課題に対する、ITを活用した戦略の立案、システムの企画・要件定義を行う。 ② システムの設計・開発、汎用製品の最適組合せ(インテグレーション)によって、利用者にとって価値の高いシステムを構築する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
基本情報処理技術者試験を通じて、ITを活用した戦略の立案、システムの企画・要件定義、設計・開発・運用に関し、知識・技能を身に付ける。各人がそれぞれ担当するプロジェクトテーマを設定する。プロジェクトテーマを題材にして、独力でデータやアプリケーション等の成果物を開発する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
使用教科書「出るとだけ」基本情報技術者科目B					校外の事業者の連携し、プロジェクトテーマを設定し活動する。校外で開催されるコンテストイベントまたはハッカソンイベントにエントリーし、作品開発を行う。(出場するコンテストの候補として、Linked Open Data チャレンジ、アーバンデータチャレンジ、都知事杯オープンデータ・ハッカソン)				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 アルゴリズムの基本概念	【到達目標】 アルゴリズムとは何か、アルゴリズムの定義と特徴を理解する。	9	【授業単元】 総合演習1	【到達目標】 プロジェクトテーマを題材に、実践的なアルゴリズム設計演習を行う。				
	【授業単元】 フローチャート			【到達目標】 アルゴリズムの表現方法(擬似コード、フローチャートなど)を理解する。					
2	【授業単元】 基本的なアルゴリズム1	【到達目標】 探索アルゴリズム(線形探索、二分探索など)を理解する。	11	【授業単元】 総合演習2	【到達目標】 プロジェクトテーマを題材に、実践的なアルゴリズム設計演習を行う。				
	【授業単元】 基本的なアルゴリズム2			【到達目標】 ソートアルゴリズム(バブルソート、クイックソートなど)を理解する。					
3	【授業単元】 基本的なアルゴリズム3	【到達目標】 再帰アルゴリズムを理解する。	12	【授業単元】 総合演習3	【到達目標】 プロジェクトテーマを題材に、実践的なアルゴリズム設計演習を行う。				
	【授業単元】 応用アルゴリズム			【到達目標】 グラフアルゴリズム(最短路、最小全域木など)、動的計画法を理解する。					
4	【授業単元】 データ構造	【到達目標】 配列、リスト、スタック、キュー、木構造(二分木、ヒープ、AVL木など)、ハッシュテーブルについて理解する。	13	【授業単元】 総合演習4	【到達目標】 プロジェクトテーマを題材に、実践的なアルゴリズム設計演習を行う。				
	【授業単元】 中テスト			【到達目標】 出題される問題に対して、アルゴリズムを設計して、プログラムを制作し、正しく動作する。					
5	【授業単元】 データ構造	【到達目標】 配列、リスト、スタック、キュー、木構造(二分木、ヒープ、AVL木など)、ハッシュテーブルについて理解する。	14	【授業単元】 総合演習5	【到達目標】 プロジェクトテーマを題材に、実践的なアルゴリズム設計演習を行う。				
	【授業単元】 中テスト			【到達目標】 出題される問題に対して、アルゴリズムを設計して、プログラムを制作し、正しく動作する。					
6	【授業単元】 データ構造	【到達目標】 配列、リスト、スタック、キュー、木構造(二分木、ヒープ、AVL木など)、ハッシュテーブルについて理解する。	15	【授業単元】 総合演習6	【到達目標】 プロジェクトテーマを題材に、実践的なアルゴリズム設計演習を行う。				
	【授業単元】 中テスト			【到達目標】 出題される問題に対して、アルゴリズムを設計して、プログラムを制作し、正しく動作する。					
7	【授業単元】 データ構造	【到達目標】 配列、リスト、スタック、キュー、木構造(二分木、ヒープ、AVL木など)、ハッシュテーブルについて理解する。	15	【授業単元】 総合演習6	【到達目標】 プロジェクトテーマを題材に、実践的なアルゴリズム設計演習を行う。				
	【授業単元】 中テスト			【到達目標】 出題される問題に対して、アルゴリズムを設計して、プログラムを制作し、正しく動作する。					
【履修に当たっての心構え・留意点】									
設定するプロジェクトテーマを題材に、実践的なアルゴリズム設計演習を行ない、探求することを期待します。探求の過程で、必要な情報テクノロジーを会得していきます。									
【成績評価の方法と基準】					講義全体を100点として、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点で段階(A~F)で評価する。 各テストはCBT方式(Computer Based Testing、Teams Formsによる試験)を基本とするが、該当授業単元の成果物制作・発表・実技試験をもって相当の評価をすることがある。 小テストは5点満点とし、合計13回行う。中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。小テストと中テストの合計点(80点満点)の1/2(小数点以下切り上げ)を講義全体に占める小テストの点数とする。				

授 業 概 要

科目名	社会福祉の原理と政策	必修 選択の別	必修	開講 区分	集中	担当 教員	内藤 博幸	
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数 30 時間
【授業を通じての到達目標】								
現代社会における福祉制度や意義や理念、福祉政策との関係について理解し、その概要を説明できる。福祉政策におけるニーズと資源について理解する。福祉政策の課題について理解し、解決策を模索する。福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解し、福祉国家論の基本を説明できるようにする。福祉政策の構成要素(福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割)について理解する。福祉政策と関連政策(教育政策、住宅政策、労働政策等)の関係について理解し、市場経済における労働・教育と福祉政策との関係を概説できるようにする。								
【学習内容】								
福祉国家及び福祉政策に関する研究経験のある教員が、現代社会における福祉政策を理解するための授業を行う。								
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】			
「最新 社会福祉士養成講座4 社会福祉の原理と政策」中央法規					授業を受けたその日のうちに、今一度内容を確認することが重要です。そこで、必ず疑問点が、見えてくるはずですよ。			
回	授業計画				回	授業計画		
1	【授業単元】 社会福祉の思想・哲学 福祉政策において重要な概念・理念 P48～59 P119～131				9	【授業単元】 男女共同参画社会と母子家庭の現状 P200		
	【到達目標】 ・福祉政策の下となった理念の変遷を説明できる ・自由主義・社会主義・保守主義などのイデオロギーを理解し簡単な説明ができる ・社会権、ノーマライゼーション、福祉多元主義など重要な用語の解説ができる ・ウエルフェアからワークフェアへの意味を解説できる				【到達目標】 ・女性解放運動(フェミニズム運動)の簡単な歴史を解説できる ・男女共同参画社会の目的は何かを解説できる ・男女平等に関する国際指標をあげ、日本の位置を説明できる ・安倍内閣の女性政策を説明できる			
2	【授業単元】 福祉政策におけるニーズと資源(リソース) P134～163				10	【授業単元】 福祉国家の類型 P67～88 P282～288		
	【到達目標】 ・非貨幣ニードという発想が生まれた背景を解説できる ・ブラッドショーのニード分類を理解し、解説することができる。 ・ニーズ(必要)とデマンド(需要)を解説できる ・必要原則と貢献原則 報酬と用具の用語解説ができる				【到達目標】 ・先進各国の社会保険費の現状を解説できる ・テイタムの福祉国家の分類を説明できる ・E.アンデルセンの福祉国家レジームを解説できる ・ウイレンスキーの福祉国家収斂説を説明できる			
3	【授業単元】 福祉政策と資源配分 P169～177	分配の正義	P148～150		11	【授業単元】 アメリカの社会保障制度 P289～295		
	【到達目標】 ・ロールズの格差原理を解説できる ・パレート効率性を理解する ・現金給付と現物給付の長所・短所をあげることができる				【到達目標】 ・アメリカの医療制度を解説できる ・アメリカの年金制度を解説できる ・アメリカの高齢者政策を解説できる			
4	【授業単元】 福祉サービスの供給 P254～271				12	【授業単元】 イギリスの社会保障制度 P289～295		
	【到達目標】 ・ウルフェンデン報告の福祉ミックス論を解説できる ・「平行権理論」と「繰り出し梯子理論」を解説できる ・PFIや指定管理者制度などNPMIについて説明できる ・ベストフの「福祉トライアングル」を説明できる				【到達目標】 ・イギリスの医療制度を解説できる ・イギリスの年金制度を解説できる ・イギリスの社会保障政策の流れを解説できる			
5	【授業単元】 福祉政策と保健医療政策 福祉政策と教育政策 P202 P224～227 P228～232				13	【授業単元】 フランス・ドイツ・スウェーデンの社会保障体制 P289～295		
	【到達目標】 ・後期高齢者医療制度を説明できる ・地域完結型医療への転換を説明できる ・特別支援学校と就学支援制度を簡潔に理解する				【到達目標】 ・スウェーデンのエーデル改革を解説できる ・ドイツのハルト改革を解説できる ・フランスの一般社会拠出金制度を説明できる			
6	【授業単元】 福祉政策と住宅政策 P233～238				14	【授業単元】 今日の我が国の福祉制度の課題		
	【到達目標】 ・老人保健施設、軽費老人ホーム、サ高住、特養の違いを説明できる ・住宅セーフティネット法の特徴をひとつ述べることができる。 ・住宅政策の課題をあげられる				【到達目標】 ・岸田首相の異次元の少子化対策の内容を解説できる ・岸田内閣の掲げる「新しい資本主義」とは何かを説明できる ・菅義偉内閣の子ども基本法制定と子ども家庭庁の新設について解説できる ・財政の問題を語るることができる			
7	【授業単元】 福祉政策と災害政策 ～251			P245	15	【授業単元】 ・社会福祉政策と理念の総復習 ・後期試験		
	【到達目標】 ・民生委員と避難行動要支援者登録制度について説明できる ・生活支援相談員の職務を解説できる ・社協のボランティアコーディネータを説明できる ・被災者生活再建支援法を解説できる				【到達目標】 ・グループ学習で、お互いの知識を確認する ・試験は60%以上の正解率			
8	【授業単元】 福祉政策と雇用政策 P239～244				【成績評価の方法と基準】			
	【到達目標】 ・福祉国家の福祉政策の重要性を説明できる ・フレキシキュリティ、ワークフェア、アクティベーションの違いを明確に説明できる ・求職者支援制度を説明できる ・最低賃金制度に関しての一通りの説明ができる				小テスト 毎回 5点満点 中テスト 第8回授業 15点満点 定期試験 15回授業 60点満点 *小テスト・中テストは合計点を ÷2(小数点以下切り上げ)とし、定期試験と合計してAからFの6段階で評価を行う。			
【履修に当たっての心構え・留意点】								
配布プリントに解答を書き込むだけでなく、気が付いたことや理解に役立つことと思ったら、どんどんメモを取っていくことです。								

授 業 概 要

科目名	ソーシャルワーク演習(社会専門)Ⅰ	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	野口和道		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
1. ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し、理論化し体系立てていくことができる能力を習得する 2. ソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う 3. 支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する 4. 地域支援の特性、課題解決に向けた、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
高齢者分野で介護職・相談職の経験や生活困窮者の炊き出し支援に携わる。現在は、低所得世帯の児童に対して学習支援や相談支援を行っている。授業は、グループワークを中心に行いソーシャルワーカーの基礎的素養を養う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
授業時に配布する資料、タブレット(Microsoft Teams)					地域共生社会の実現に向けて、急速かつさまざまな変化が生じる社会、多様な社会と価値観に対する柔軟性を意識化する。幅広い分野の情報に関心を持ち、多角的な視点で考える。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 導入ガイダンス 現在の自分から望ましい自身の姿を想像し、目標を立てる 【到達目標】 ・現在の自分を主観的に理解することができる ・どのようなことがやりたいのか、自分の得意と不得意なことは何かを言語化することができる ・興味や関心をもって積極的に取り組みたい内容を言語化し、他者に伝えることができる				9	【授業単元】 意思決定支援～自己決定が困難な対象への支援 【到達目標】 ・ニーズとデマンドの違いについて理解し、振り分けて考えることができる ・意思形成支援と意思表出支援の違いについて理解する			
2	【授業単元】 ソーシャルワーカーとして望ましい価値観は自身の価値観に則しているかを客観的に知る 【到達目標】 ・ソーシャルワーカーとしての専門的価値観について「社会福祉士倫理綱領」または「ソーシャルワークのグローバル定義」とは、読み解き、自身の大切にしている価値観に当てはめてみよう				10	【授業単元】 家族支援～インテーク、家族それぞれへのアプローチ 【到達目標】 ・会話に根拠を用いた話し方や、言語を伴わない非言語(ノンバーバル)的表出法の意義、目的、効果を理解し、有効に使えるための理解を实践することができる ・家族間の関係性、力動を把握し図式化することができる ・家族それぞれが抱える感情に寄り添い、信頼関係構築に向けた働きかけを理解することができる			
3	【授業単元】 援助者としての意識を形成する 【到達目標】 ・ソーシャルワーカーとしての自己覚知をする「私は・・・(自己紹介)」 ・大切にしている価値観を意識し人と人の会話を実践してみる				11	【授業単元】 拒否的な対象への介入 【到達目標】 ・ケース発見にむけたアウトリーチの効果的実践を意識することができる ・多面的、包括的アセスメントを実践することができる ・リスク予測、緊急性の判断について根拠を示すことができる ・ニーズの明確化とアカウントビリティの重要性を理解することができる			
4	【授業単元】 ソーシャルワーカーの基本的姿勢【価値】～価値の順位 【到達目標】 ・自他の価値観の共有、受容、共感「価値の順位」を話しあい、相手の意見を受け止めながらも自己の意見を伝えることができる ・意見の相違が生じた時にどのように作用することで関係性構築に結ぶか主体的に考えることができる				12	【授業単元】 複数課題を抱えるひとり親家庭への支援① 【到達目標】 ・親子それぞれに対して適切な面接技法を用いて思いを引き出すことができる ・アセスメントから取り組むべき課題の優先順位を検討することができる			
5	【授業単元】 ソーシャルワーカーの基本的姿勢【ジレンマ】と他者理解 【到達目標】 ・自己の中で譲れない葛藤が生まれた時に、自己の中で【ジレンマ】が生じる。それはなぜか、どんな気持ちか。ジレンマを覚えて共有し、グループの中で伝え合うことができる ・自己を統制することの大切さを知る				13	【授業単元】 複数課題を抱えるひとり親家庭への支援② 【到達目標】 ・支援方針をたて、具体的な支援内容を示すことができる(プランニング) ・多職種連携の目的や、効果、手段を知る ・支援の評価から終結の判断と必要なアフターケアを考えることができる			
6	【授業単元】 自分流ソーシャルワーカーの価値、態度、言葉～ロールプレイ 【到達目標】 ・相談援助におけるルールや守るべきことは何かをロールプレイを基にそれぞれの立場で体験し気づきを得る ・気づきを他者と共有し、相談援助において必要な心構えはどうかを理解することができる				14	【授業単元】 社会資源開発～アドボカシー 【到達目標】 ・社会資源とは何か、実在する資源等を用いてフォーマル、インフォーマルの別に示すことができる ・クライアントのニーズ充足に必要な社会資源を理解する ・ケースアドボカシーとコース(クラス)アドボカシーを实践するにあたってソーシャルワーカーの			
7	【授業単元】 災害時支援～ソーシャルワーカーの役割 【到達目標】 ・災害時の暮らしの変化と生活課題を考えることができる ・被災者の感情の変化を理解し、顕在化する問題だけでなく中長期的に必要な支援を提案することができる				15	【授業単元】 定期試験 解説および前期学習内容の振り返り(まとめ) 【到達目標】 ・前期授業の学習内容から出題 ・定期試験解説、前期学習目標の達成度を振り返り、後期学習に向けた目標設定ができる			
8	【授業単元】 中テスト(第1～7回までの授業範囲を出題対象とする) 災害時支援～介入の留意点と連携構築 【到達目標】 ・災害時における被災地の実情を理解することができる ・ソーシャルワーカーに求められる役割とできること、すべきことは何かを考えることができる				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験(記述形式含む)で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
毎授業ごと、科目シラバスから自身の学びのポイントを明確化しましょう。教室の中は安心安全な場として、他者の意見を聞き、話してください。否定せず広い視野で受け止め互いを尊重し、思考を繰り返し、自分の成長に活かしてください。									

授 業 概 要

科目名	地域福祉と包括的支援体制	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	幾田 こずえ		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
「地域福祉の基本的な考え方、展開、動向」「地域福祉における主体と対象、住民の主体形成の概念」「地域福祉を推進するための福祉行政の実施体制と果たす役割」「地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開」「包括的支援体制の考え方と多職種及び多機関協働の意義と実際」「地域生活課題の変化と現状を踏まえた包括的支援体制における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割」などについて理解できるようにする。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
地域活動支援センターで社会福祉士・精神保健福祉士として相談援助業務にあたる傍ら、地域連携による障害者支援を担うソーシャルワーカーについて大学院にて研究を修めた教員が、実践現場や国家試験を視野に入れ、地域福祉についての基礎的な知識と理論に関する授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最新・社会福祉士養成講座『地域福祉と包括的支援体制』(中央法規出版)					・授業前または授業後に教科書の該当箇所を読み、要点を整理する。 ・小テストや中テストなどで間違えた問題については振り返りを行う。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 第5章 地域を基盤としたソーシャルワークの展開(1) 第1節				9	【授業単元】 第7章 福祉計画の意義と種類、策定と運用(2) 第2節～第3節			
	【到達目標】 地域を基盤としたソーシャルワークの概念を整理し、必要となった背景を把握する。 地域共生社会の実現について理解する。					【到達目標】 地域福祉計画とその他の計画について学ぶ。 計画に含まれている一連の過程を理解する。			
2	【授業単元】 第5章 地域を基盤としたソーシャルワークの展開(2) 第2節				10	【授業単元】 第7章 福祉計画の意義と種類、策定と運用(3) 第3節～第4節			
	【到達目標】 地域福祉における住民の主体形成の意味と意義を理解する。 住民の主体形成を支援するソーシャルワークの視点や方法を理解する。					【到達目標】 福祉計画の計画化、策定の際の主体と過程を学ぶ。 計画化で用いられる方法や技術、留意点について理解する。			
3	【授業単元】 第5章 地域を基盤としたソーシャルワークの展開(3) 第3節				11	【授業単元】 第7章 福祉計画の意義と種類、策定と運用(4) 第4節～第5節			
	【到達目標】 地域を基盤としたソーシャルワークの具体的な展開過程とポイントを学ぶ。					【到達目標】 ニーズの概念や類型を学ぶ。 ニーズ把握の方法・技術、留意点などについて知る。 福祉計画における評価について学ぶ。			
4	【授業単元】 第6章 災害時における複合的かつ総合的包括的な支援体制(1) 第1節				12	【授業単元】 第8章 福祉行政システム(1) 第1節～第2節			
	【到達目標】 被災者を支援するための法制度について学ぶ。 法制度の変遷や災害時特有の制度や措置について理解する。					【到達目標】 行政の骨格について把握し、福祉行政体制を理解する。 法定受託事務と自治事務について学ぶ。 都道府県における福祉行政体制や組織を把握し、役割について学ぶ。			
5	【授業単元】 第6章 災害時における複合的かつ総合的包括的な支援体制(2) 第1節～第2節				13	【授業単元】 第8章 福祉行政システム(2) 第3節～第4節			
	【到達目標】 被災者を支援するための法制度について学ぶ。 法制度の変遷や災害時特有の制度や措置について理解する					【到達目標】 市町村における福祉行政体制や組織を把握し、役割について学ぶ。 中央集権から地方自治への流れを理解し、地方分権の意義と改革の流れを把握する。			
6	【授業単元】 第6章 災害時における複合的かつ総合的包括的な支援体制(3) 第3節				14	【授業単元】 第8章 福祉行政システム(3) 第5節～第6節			
	【到達目標】 被災者が抱える多様なニーズについて学ぶ。 被災者の状態を踏まえた包括的な支援や平時からの取り組みの重要性について理解する。					【到達目標】 社会福祉の実施体制について把握し、専門機関や専門職について理解する。 国、地方、民間の財源について学ぶ。			
7	【授業単元】 第7章 福祉計画の意義と種類、策定と運用(1) 第1節～第2節				15	【授業単元】 後期の振り返り、定期試験			
	【到達目標】 福祉計画の基礎的視点を学ぶ。 日本の福祉制度の展開、地域福祉計画の歴史の変遷について理解する。					【到達目標】 福祉計画、福祉行政システムについてを中心に後期の内容を振り返り、理解を深める。			
8	【授業単元】 中間振り返り、中テスト				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 地域を基盤としたソーシャルワークの展開、災害時における支援体制について振り返り、理解を								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
日常生活において地域住民の一員であるという意識を持ち、特に自身の居住地									

授 業 概 要

科目名	心理学と心理学的支援	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	阿相 周一		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
心理学と心理学的支援を概観し、基礎的・包括的な理解を目指す。具体的には、以下の通りである。 心理学の歴史と心の健康、心理学的支援を理解し、説明することができることを到達目標とする。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
担当教員は、臨床心理士・公認心理師として医療(特に依存症/アディクションを専門)や教育、治験等の分野で臨床活動に携わっている。授業では、アディクション臨床の知見も取り入れ、将来の臨床活動や日々の日常生活に役立つ実践的な知識を提供する。また、ディスカッションやグループワークも取り入れ、担当教員と生徒、生徒どうしというように双方向のコミュニケーションを重視し、学習内容の理解を深める。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
使用教科書:心理学と心理学的支援 中央法規 参考図書:各授業で適宜紹介					本科目に関する図書は、使用教科書以外にも数多くあります。授業で紹介する参考図書を、ぜひ読み比べてみてください。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 科目オリエンテーション				9	【授業単元】 心の不適応			
	【到達目標】 心理学と心とは何かを説明することができる					【到達目標】 心の不適応を説明することができる			
2	【授業単元】 心理学の歴史				10	【授業単元】 健康生成論			
	【到達目標】 心理学の歴史を説明することができる					【到達目標】 健康生成論を説明することができる			
3	【授業単元】 心の生物学的基盤				11	【授業単元】 心理アセスメントと心理支援の基本的技法			
	【到達目標】 心の生物学的基盤を説明することができる					【到達目標】 心理アセスメントと心理支援の基本的技法を説明することができる			
4	【授業単元】 人の心の基本的な仕組みと機能1				12	【授業単元】 心理療法			
	【到達目標】 感情・動機付け・欲求、学習・行動を説明することができる					【到達目標】 各心理療法を説明することができる			
5	【授業単元】 人の心の基本的な仕組みと機能2				13	【授業単元】 子ども・家庭福祉、高齢者福祉、障害児・者福祉			
	【到達目標】 感覚・知覚、認知を説明することができる					【到達目標】 子ども・家庭福祉、高齢者福祉、障害児・者福祉を説明することができる			
6	【授業単元】 人の心の基本的な仕組みと機能3				14	【授業単元】 精神保健福祉、支援者支援福祉、制度利用と心理的ケア			
	【到達目標】 知能・パーソナリティ、社会の中での心理を説明することができる					【到達目標】 精神保健福祉、支援者支援福祉、制度利用と心理的ケアを説明することができる			
7	【授業単元】 人の心の発達過程				15	【授業単元】 これまでの授業の振り返り 定期テスト 定期テストの解答解説			
	【到達目標】 人の心の発達過程を説明することができる					【到達目標】 第1回から第14回までの学習内容を取得できている			
8	【授業単元】 これまでの授業の振り返り 中テスト 中テストの解答解説				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 第1回から第7回までの学習内容を取得できている								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
・「なぜ」という疑問、好奇心、興味関心を大切にしてください									

授 業 概 要

科目名	障害者福祉	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	渡邊 知行		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
1障害者福祉の考え方について歴史的背景や各理念などを総合的に踏まえて説明できる。 2障害者福祉に関する法制度やサービスの内容を説明できる。 3障害福祉の現場で果たす役割や支援のあり方について自身の考えを持つ。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
障害者グループホームの支援者として実務経験を積みながら、大学院で障害福祉分野の研究に取り組んできた講師が、現場事例や学術的背景を含めた授業を実施する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座8 障害者福祉』 中央法規					予習:①教科書対応ページを読む ②重要ポイントをネット検索(コマシラ参照) 復習:①授業資料を復習する ②教科書を読みなおす				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション				9	【授業単元】 障害者福祉の主な関連法			
	【到達目標】 障害について考えて、自分なりの障害観を持つ。					【到達目標】 障害者福祉の主な関連法の概要を学び、それぞれの役割や意義を理解する。			
2	【授業単元】 障害に対する考え方 □				10	【授業単元】 障害者総合支援法①			
	【到達目標】 ICFとICIDH、医学モデルと社会モデルを学び、その違いについて理解する。□					【到達目標】 障害者総合支援法に基づく障害者福祉の体系について整理する。			
3	【授業単元】 障害者福祉の理念 □				11	【授業単元】 障害者総合支援法②			
	【到達目標】 ノーマライゼーションの起源を学び、その理念について歴史的背景から理解する。					【到達目標】 障害者総合支援法に基づく障害福祉サービスの仕組みを理解する。			
4	【授業単元】 日本における障害者福祉の変遷				12	【授業単元】 障害者総合支援法③			
	【到達目標】 障害者福祉の発展過程について、各時代の状況や背景を踏まえて理解する。					【到達目標】 障害者総合支援法に基づく相談支援の仕組みを理解する。			
5	【授業単元】 障害者福祉の行政と福祉計画				13	【授業単元】 障害者福祉に関連する法律①			
	【到達目標】 基盤整備のために作成される障害福祉分野における福祉計画の機能と役割を理解する。					【到達目標】 障害者の生活や社会の環境に関する法律を学び、その必要性について理解する。			
6	【授業単元】 障害の定義□				14	【授業単元】 障害者福祉に関連する法律②			
	【到達目標】 障害について規定している法律を学び、障害者の定義、障害の特性や制度等を整理する。					【到達目標】 障害者の差別や虐待に関連する法律を学び、諸問題について考えを持てる。			
7	【授業単元】 障害者の生活実態 □				15	【授業単元】 定期テスト□ 振り返り			
	【到達目標】 障害者の生活実態について近年の傾向を把握して、支援方法について考える。					【到達目標】 前半授業で学んだ障害福祉の歴史・現状や理念・制度等を踏まえて、後半授業で勉強した現在施行されている障害福祉分野の諸法律による施策について説明できる。			
8	【授業単元】 中テスト				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 毎回授業の小テストは各回5点満点とし、中テスト15点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 前半授業で学んだこと(障害福祉の歴史と現状、理念や制度等)が総合的に理解できる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
授業は、新しいことを知って理解する場です。理解しないと知識は定着しないので、授業では理解するように努めてください。しかし、理解するだけでは知識は定着しないので、復習してテストに応じてください。									

授 業 概 要

科目名	高齢者福祉	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	前田 伊織		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーク科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
1. 高齢者の定義と特性をふまえ、高齢者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解する 2. 高齢者福祉の歴史と高齢者親の変遷、制度の発展過程について理解する 3. 高齢者に対する法制度と支援の仕組みについて理解する 4. 高齢期における生活課題をふまえて、社会福祉士としての適切な支援の在り方を理解する									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
高齢者福祉施設、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所等にて相談援助業務や管理業務を約17年間務める。業務で得た知識を元に、現在の高齢福祉業界の実情を加味し、実際に出会った事例などを元に理解しやすい形での授業進行を心がける。また、社会福祉士としての考え方を介護支援専門員との視点を交えて伝えていけるよう授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最新社会福祉士養成講座 高齢者福祉(中央法規出版) タブレット(MicrosoftTeams)、授業時に配布する資料					予習・復習として、学生自身の日常生活圏等における高齢者関連の時事問題や支援制度等を意識的に情報収集し、それに対する個人の考えをまとめる。授業での発表や提出は事前通知する。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 導入ガイダンス 高齢者と少子高齢社会(1)高齢者の社会的理解と身体的特性 【到達目標】 ・高齢者の定義を説明できる ・ソーシャル・ネットワークとソーシャル・サポートの概念について説明できる ・高齢者の身体的特徴6つと主な疾患について説明できる ・高齢者へのアセスメントやコミュニケーションの要点を述べることができる				9	【授業単元】 介護保険制度(1)制度の概要と仕組み 【到達目標】 ・介護保険制度の目的・理念と改正の背景ならびに方向性を説明できる ・財源構成と費用負担構造を説明できる ・国、都道府県、市町村の役割と被保険者の対象要件を説明できる			
2	【授業単元】 高齢者と少子高齢社会(2)高齢者の精神的特性 【到達目標】 ・精神機能の老化と高齢期における精神障害の特性を説明できる ・認知症の定義および代表的な4つの認知症について主な症状とケア方法を説明できる ・老年期うつ病の特徴と留意点を説明できる				10	【授業単元】 介護保険制度(2)制度利用の仕組み 高齢者の介護実態 ・要介護(要支援)認定の仕組みとプロセスを説明できる ・介護認定審査会と介護保険審査会の違いを説明できる ・介護給付と予防給付、市町村特別給付の違いを説明できる ・介護報酬と利用者の費用負担について説明できる			
3	【授業単元】 高齢者を取り巻く社会環境 【到達目標】 ・高齢化率の水準と推移をふまえ、日本の高齢化の状況について説明できる ・世帯構成の変化に伴う家族の役割や介護問題について説明できる ・近年の家族介護に関する代表的な3つの問題に対するソーシャルワーカーの役割を説明できる				11	【授業単元】 介護保険制度(3)地域支援事業 【到達目標】 ・地域支援事業の目的と体系を整理し、介護予防から総合事業への移行を説明できる ・地域包括支援センターの設置目的や設置体制を説明できる ・地域包括支援センターの業務内容と三職種の役割を説明できる			
4	【授業単元】 高齢者の生活実態 【到達目標】 ・高齢者の所得状況と経済的問題、就労の実態について説明できる ・高齢者雇用安定法の概要を説明できる ・平均寿命の変化と健康寿命、受養率と要介護者数の推移を述べることができる ・高齢者の生活実態における課題と必要な支援について述べることができる				12	【授業単元】 介護保険制度(4)介護保険サービスの体系 【到達目標】 ・居宅サービス、介護予防サービスを具体的に2つ以上挙げることができる ・地域密着型サービスの特徴と具体的なサービスを2つ以上説明できる ・介護保険3施設の特徴を説明できる			
5	【授業単元】 専門職の役割と支援の実際 【到達目標】 ・フォーマルな専門職の役割を相互理解し、インフォーマルな援助者について説明できる ・個人、家族、グループ、地域へ的高齢者ソーシャルワークにおける考え方を述べることができる ・終末期ケアにおけるソーシャルワークの意図と具体的な支援方法を述べることができる				13	【授業単元】 高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律(高齢者虐待防止法) 【到達目標】 ・高齢者虐待について、種別・類型ごとに傾向を説明できる ・高齢者虐待防止法の目的と特徴について説明できる ・虐待対応における支援の視点とプロセスを説明できる			
6	【授業単元】 高齢者福祉の歴史と理念(1)高齢者親と高齢者福祉の発展過程～明治から昭和中期～ 【到達目標】 ・高齢者親の変遷をふまえ、現代における3つの高齢者親について概念を述べることができる ・明治期の恤救規則における考え方の特徴や具体的な内容を述べることができる ・戦後の日本国憲法成立から昭和中期までの法整備について背景要因と共に説明できる				14	【授業単元】 高齢者支援の関係法規 【到達目標】 ・高齢者医療確保法の概要および後期高齢者医療制度について説明できる ・日本における「V/A」アフリ政策展開および法概要を説明できる ・高齢者住まい法制定に至る流れとサービス付き高齢者向け住宅の位置づけを述べることができる			
7	【授業単元】 高齢者福祉の歴史と理念(1)高齢者親と高齢者福祉の発展過程～昭和後期から平成～ 【到達目標】 ・ゴールドプラン～新ゴールドプラン～ゴールドプラン21 策定背景とサービス体制整備を説明できる ・介護保険制度の創設から近年の地域包括ケアシステム構築までの施策と課題を説明できる ・高齢者福祉の概念および法律にみられる高齢者福祉の理念を述べることができる				15	定期試験 前期授業の振り返り 【到達目標】 ・後期授業 全範囲を対象とした筆記試験による理解度の確認 ・定期試験問題の解答解説と前期授業の振り返り			
8	【授業単元】 老人福祉法 中テスト(第1～7回までの授業範囲を出題対象とする) 【到達目標】 ・老人福祉法成立の経緯と目的、理念について説明できる ・老人福祉法に基づく措置の実施権者と具体的な内容を2つ述べることができる ・老人福祉法と介護保険法の関係性、地域包括ケアの実現に向けた法改正について述べることができる				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
社会の変化や政策、動向に対して積極的に情報を取り入れる姿勢で取り組みましょう。部分的に、授業内でグループワークを取り入れ、専門職として考える力も習得できるよう進行する予定です。									

授 業 概 要

科目名	ソーシャルワークの理論と方法(社会専門)	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	前田 伊織		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
1. 社会福祉士として多様化・複雑化する課題に対応するため、より実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論と方法を理解する 2. 支援を必要とする人との援助関係の形成やニーズの掘り起こしを行うための、知識と技術について理解する 3. 社会資源の活用を意識をふまえ、地域における社会資源の開発やソーシャルアクションについて理解する 4. 個別の事例の具体的な解決策および事例の共通性や一般性を見出すための、事例分析の意義や方法を理解する									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
高齢者福祉施設、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所等に相談援助業務や管理業務を約17年間務める。業務で得た知識を元に、現在の高齢福祉業界の実情を加味し、実際に出会った事例などを元に理解しやすい形で授業進行を心がける。また、社会福祉士として必要な技術習得を基礎とし、クライアントとの関係構築など実践的な技術の習得を目指す									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最新 社会福祉士・精神保健福祉士養成講座 ソーシャルワークの理論と方法(共通科目)/中央法規出版 タブレット(Microsoft Teams)、授業時に配布する資料					他科目で学習した基礎知識を本科目にもつなげて授業に取り組めるよう復習をする。自身の日常生活圏域や社会の変化、社会問題等を意識的に情報収集する。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 授業オリエンテーション ソーシャルワークの理論と方法(共通)の再確認				9	【授業単元】 第2章 援助関係の形成方法と留意点			
	【到達目標】 ・社会福祉士に必要な知識の総体における本科目の位置づけを理解する ・講義の進め方を理解し、学びへの主体的な取り組みを意識する ・「ソーシャルワークの理論と方法(共通)」での学習をふまえて、本科目を学ぶ意義、個々の学習目標を明確化・言語化できる					【到達目標】 ・援助関係形成における、ソーシャルワーカー自身の自己覚知、自己理解と他者理解の必要性を理解し自身と向き合い考えることができる ・バイステックの原則をふまえた援助関係の形成方法を実践的に理解する			
2	【授業単元】 第1章 総合的かつ包括的な支援の考え方				10	【授業単元】 第3章 ネットワークの形成			
	【到達目標】 ・ジェネラリストソーシャルワークと実践モデルの相互関係を説明できる ・総合的かつ包括的な支援の考え方を理解する(エンゲージメントとアセスメントスキル) ・事例を通して、多様化、複雑化した生活課題に対応するための関わり視点とネットワーク形成を理解する					【到達目標】 ・ネットワークの意義、概念、方法を理解する ・社会福祉政策動向のなかでのネットワークの位置づけを理解する(地域ケア会議、地域包括ケアシステム) ・ネットワークのプロセスと留意点を理解する(ソーシャルサポート・ネットワーク)			
3	【授業単元】 第1章 家族支援の実践				11	【授業単元】 第3章 コーディネーション			
	【到達目標】 ・家族を取り巻く社会の状況、複合的課題を理解する ・家族に関する基礎理論を理解し、「家族」をアセスメントする方法を理解する ・家族支援に求められる視点を理解し、ツールを活用して実践的に家族支援を考えることができる					【到達目標】 ・コーディネーションの意義と方法を理解する ・コーディネーターを担う人材とその役割を理解する ・コーディネーションの構成要素とコーディネーターの専門性をふまえた具体的手段を理解する			
4	【授業単元】 第1章 地域支援の実践				12	【授業単元】 第4章 社会資源の活用・調整			
	【到達目標】 ・地域課題の把握から解決に至るまでのプロセスを理解する ・地域における多様な団体、組織、機関との協働や連携の具体的な方法を理解する ・地域支援を行う専門職として、必要な知識、スキル、価値を理解する					【到達目標】 ・ソーシャルワーク実践における社会資源の位置づけ、具体的な内容と活用を理解する ・ソーシャルワーカーの介入方法と社会資源との関係を理解する ・ジェネラリストソーシャルワークにおける社会資源の開発の捉え方を理解する			
5	【授業単元】 第1章 非常時や災害時支援の実践				13	【授業単元】 第4章 社会資源開発のさまざまな方法			
	【到達目標】 ・非常時や災害時の定義、生じる生活課題に対するソーシャルワークの目的を理解する ・ソーシャルワーク専門職の活動と支援の原則を理解する ・事例を通して、災害ソーシャルワークの展開と留意点を考えることができる					【到達目標】 ・社会資源開発の方法とプロセスを理解する ・事例を通して、社会資源開発に必要なソーシャルワーカーの知識とスキルを理解する			
6	【授業単元】 コミュニティソーシャルワーク実践を考える				14	【授業単元】 第5章 カンファレンス			
	【到達目標】 ・地域支援の実践ならびに災害ソーシャルワークの展開事例をふまえて、予防的取り組みや災害発生時に活用できる地域での体制づくり・取り組みを考え提案することができる					【到達目標】 ・社会福祉士の業務や実践における会議の種類や開催に必要なスキルを理解する ・会議の運営と留意点を理解する			
7	【授業単元】 第2章 援助関係形成の意義と概念				15	【授業単元】 定期試験 解説および前期学習内容の振り返り(まとめ)			
	【到達目標】 ・人間関係と援助関係の違いを理解し、ソーシャルワークにおける援助関係の重要性と意義を理解する ・ソーシャルワーク専門職のグローバル定義、構成要素、倫理綱領から、実践レベルにおける援助関係の意義と留意点を理解する					【到達目標】 ・前期授業の学習内容から出題 ・定期試験解説、前期学習目標の達成度を振り返り、後期学習に向けた目標設定ができる			
8	【授業単元】 中テスト 解説および学習内容の振り返り				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
	【到達目標】 ・前期第1～7回の学習内容から出題 ・中テスト解説、学習内容の振り返りから理解度を確認する ・国家試験対策(演習問題)								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
専門職種、職場における実践をイメージし社会福祉士としての思考を意識して取り組みましょう。自他の考えを受容する意識をもち、考える力・発言する力・質問する力を高められるよう積極的かつ協働の学習環境を意識してください。									

授 業 概 要

科目名	ソーシャルワークの理論と方法(社会専門)	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(後期)	担当 教員	前田 伊織	
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数 30 時間
【授業を通じての到達目標】								
1. 社会福祉士として多様化・複雑化する課題に対応するため、より実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論と方法を理解する 2. 支援を必要とする人との援助関係の形成やニーズの掘り起こしを行うための、知識と技術について理解する 3. 社会資源の活用の意義をふまえ、地域における社会資源の開発やソーシャルアクションについて理解する 4. 個別の事例の具体的な解決策および事例の共通性や一般性を見出すための、事例分析の意義や方法を理解する								
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)								
高齢者福祉施設、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所等にて相談援助業務や管理業務を約17年間務める。業務で得た知識を元に、現在の高齢福祉業界の実情を加味し、実際に出会った事例などを元に理解しやすい形での授業進行を心がける。また、社会福祉士として必要な技術習得を基礎とし、クライアントとの関係構築など実践的な技術の習得を目指す								
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】			
最新 社会福祉士・精神保健福祉士養成講座 ソーシャルワークの理論と方法(共通科目)/中央法規出版 タブレット(Microsoft Teams)、授業時に配布する資料					他科目で学習した基礎知識を本科目にもつなげて授業に取り組めるよう復習をする。自身の日常生活圏域や社会の変化、社会問題等を意識的に情報収集する。			
コマ	授業計画			コマ	授業計画			
1	【授業単元】 第5章 ミクロ・メゾ・マクロの会議①			9	【授業単元】 第7章 ネゴシエーション②			
	【到達目標】 ・事例に基づき、ミクロ、メゾ、マクロレベルの会議(カンファレンス)を開催することができる ・会議開催に伴う記録、終了後フィードバックの意味と効果を実践的に理解する				【到達目標】 ・交渉に必要な要素を理解する ・事例に基づき、ネゴシエーションに取り組むことができる			
2	【授業単元】 第5章 ミクロ・メゾ・マクロの会議②			10	【授業単元】 第7章 ソーシャル・マーケティング①			
	【到達目標】 ・事例に基づき、ミクロ、メゾ、マクロレベルの会議(カンファレンス)を開催することができる ・会議開催に伴う記録、終了後フィードバックの意味と効果を実践的に理解する				【到達目標】 ・ビジネスから捉える社会問題の視点を理解し、多面的、異なる価値観からの気付きを意識化する ・ソーシャル・ビジネスの要素と事業領域を理解する			
3	【授業単元】 第7章 ファシリテーション			11	【授業単元】 第7章 ソーシャル・マーケティング②			
	【到達目標】 ・ファシリテーションの定義、目的、活用領域を理解する ・ファシリテーションのプロセスと留意点を理解する				【到達目標】 ・ソーシャル・ビジネスの要素と事業領域を理解する ・ソーシャル・マーケティングの定義と目的、基準、プロセスを理解する			
4	【授業単元】 第7章 プレゼンテーション			12	【授業単元】 第6章 事例分析			
	【到達目標】 ・プレゼンテーションの意義、目的、方法を理解する ・問題への気付きと視点(フレームワーク)を理解する ・プレゼンテーション資料作成と事前準備、事後評価の必要性と留意点を理解する				【到達目標】 ・事例分析の目的と意義、方法と留意点を理解する			
5	【授業単元】 第7章 コンフリクト・レゾリューション①			13	【授業単元】 第6章 事例検討			
	【到達目標】 ・コンフリクトとは具体的にどのような状況か、これに向き合う目的を理解する ・コンフリクトの構造と対処を理解する				【到達目標】 ・事例検討の目的と意義、方法と留意点を理解する			
6	【授業単元】 第7章 コンフリクト・レゾリューション②			14	【授業単元】 第6章 事例研究			
	【到達目標】 ・コンフリクトの構造と対処を理解する ・事例を通して、リスクコミュニケーションの重要性を理解する				【到達目標】 ・事例研究の目的と意義、方法を理解する ・事例研究の実施プロセスと倫理的配慮を理解する			
7	【授業単元】 第7章 ネゴシエーション①			15	【授業単元】 定期試験 解説および後期学習内容の振り返り(まとめ)			
	【到達目標】 ・交渉の種類、原則を理解する ・展開過程を理解する				【到達目標】 ・後期授業の学習内容から出題 ・定期試験解説、後期学習目標の達成度を振り返り、国家試験に向けて具体的な取り組みを考える			
8	【授業単元】 中テスト 解説および学習内容の振り返り			【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
	【到達目標】 ・後期第1～7回の学習内容から出題 ・中テスト解説、学習内容の振り返りから理解度を確認する ・国家試験対策(演習問題)							
【履修に当たっての心構え・留意点】								
専門職種・職場における実践をイメージし社会福祉士としての思考を意識して取り組みましょう。自他の考えを受容する意識をもち、考える力・発言する力・質問する力を高められるよう積極的かつ協働の学習環境を意識してください。								

授 業 概 要

科目名	ソーシャルワーク実習指導（社会）	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	学科教員				
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1	単位	総時間数	30	時間
【授業を通じての到達目標】											
<p>① ソーシャルワーク実習の意義について理解する。</p> <p>② 社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養う。</p> <p>③ ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を習得する。</p> <p>④ 実習を振り返り、実習で得た具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる総合的な能力を涵養する。</p>											
【学習内容】（どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
社会福祉士としての実務経験が5年以上もしくは実習教員講習会を修了した教員が、集団および個別指導にて実習先における事前理解や実習終了後の現場体験を踏まえた総括等をおこなう。											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
実習要項 社会福祉士指定科目 各教科書						実習オリエンテーションに参加するとともに、実習先についての事前学習等、実習に向けた各自の学習が必要である。					
授業計画											
<p>① 実習及び実習指導の意義（スーパービジョン含む。）</p> <p>② 多様な施設や事業所における現場体験学習や見学実習</p> <p>③ 実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む。）と施設・機関、地域社会等に関する基本的な理解</p> <p>④ 実習先で関わる他の職種の専門性や業務に関する基本的な理解</p> <p>⑤ 実習先で必要とされるソーシャルワークの価値規範と倫理・知識及び技術に関する理解</p> <p>⑥ 実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解</p> <p>⑦ 実習記録への記録内容及び記録方法に関する理解</p> <p>⑧ 実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成及び実習後の評価</p> <p>⑨ 巡回指導</p> <p>⑩ 実習体験や実習記録を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成</p> <p>⑪ 実習の評価及び全体総括会</p>											
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】					
ソーシャルワーカーとしてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むための心構えが求められる。						実習前試験(100点満点)の結果をふまえ、A～Fの6段階で評価する。					

授 業 概 要

科目名	ソーシャルワーク実習（社会）	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	学科教員				
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	2年	授業の 方法	実習	単位数	1	単位	総時間数	60	時間
【授業を通じての到達目標】											
① ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養う。 ② 支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）について把握する。 ③ 生活上の課題（ニーズ）に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行う。 ④ 施設・機関等が地域社会の中で果たす役割を実践的に理解する。 ⑤ 総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。											
【学習内容】（どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
社会福祉士としての実務経験が3年以上かつ実習指導者講習会を修了した実習担当者が、相談援助実習担当教員の巡回指導と合わせ、実習中の取り組みについてフィードバックとスーパービジョンを行うなかで、実践を通して学んだ知識や経験を理論としてまとめる能力の涵養を行う。											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
実習要項 社会福祉士指定科目 各教科書						実習時間以外も実習日誌の記入や実習課題等に取り組むとともに、既習内容を復習し実習に生かしていく姿勢が必要である。					
授業計画											
① 利用者やその関係者（家族・親族、友人等）、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成 ② 利用者やその関係者（家族・親族、友人等）との援助関係の形成 ③ 利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）の把握、支援計画の作成と実施及び評価 ④ 利用者やその関係者（家族・親族、友人等）への権利擁護活動とその評価 ⑤ 多職種連携及びチームアプローチの実践的理解 ⑥ 当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけ ⑦ 地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解 ⑧ 施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際（チームマネジメントや人材管理の理解を含む。） ⑨ 社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任の理解 ⑩ ソーシャルワーク実践に求められる以下の技術の実践的理解 ・アウトリーチ ・ネットワーキング ・コーディネーション ・ネゴシエーション ・ファシリテーション ・プレゼンテーション ・ソーシャルアクション											
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】					
ソーシャルワーカーとしてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むとともに、主体的な姿勢で取り組むことが求められる。						実習指導者による評価、実習巡回教員による評価、自己評価を換算し、A～Fの6段階で評価する。					

授 業 概 要

科目名	ソーシャルワーク演習(社会専門)Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(後期)	担当 教員	野口和道		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
1. ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し、理論化し体系立てていくことができる能力を習得する 2. 支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合かつ包括的な支援について実践的に理解する 3. 社会資源の活用の意義をふまえ、地域における社会資源の開発やソーシャルアクションについて理解する 4. 個別事例の具体的な解決策及び事例の共通性や一般性を見出すための、事例分析の意義や方法を理解する									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
高齢者分野で介護職・相談職の経験や生活困窮者の炊き出し支援に携わる。現在は、低所得世帯の児童に対して学習支援や相談支援を行っている。授業は、グループワークを中心に行いソーシャルワーカーの基礎的素養を養う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
授業時に配布する資料、タブレット(Microsoft Teams)					地域共生社会の実現に向けて、急速かつさまざまな変化が生じる社会、多様な社会と価値観に対する柔軟性を意識化する。幅広い分野の情報に関心を持ち、多角的な視点で考える。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 地域支援～アウトリーチと地域アセスメント				9	【授業単元】 ネゴシエーション			
	【到達目標】 ・地域はネットワークで支えられていることを理解する(地縁組織、住民のストレングス) ・住民にとっての"地域を知る"視点を意識化することができる ・ソーシャルワーカーとしてどのようなことに焦点化し行動すればよいか考えることができる					【到達目標】 ・利害の対立とはどういうことが、言語化することができる ・対立の背景にある価値観について考えることができる ・利害を調整する視点を持ち、ネゴシエーションを実践することができる			
2	【授業単元】 地域支援～住民主体の計画立案				10	【授業単元】 ソーシャル・マーケティングの実践～ソーシャルアクション			
	【到達目標】 ・地域特性をふまえ、地域に対する住民のニーズや課題を言語化することができる ・地域課題に対する取り組みの根拠を説明することができる ・住民主体の活動となる実践計画をたてることができる					【到達目標】 ・身近な問題に対して、期待するソーシャルアクションを考えることができる ・ソーシャル・マーケティングを活用した提案ができる ・結果予測を数値化、言語化することができる			
3	【授業単元】 社会資源開発～アドボカシー				11	【授業単元】 スーパービジョン①			
	【到達目標】 ・社会資源と地域をつなぐためにソーシャルワーカーはどこへ、どのように働きかけるのか(具体的手段)を考えることができる ・社会資源開発の展開過程を段階的に抽出し、評価方法までを含む実践計画をたてることができる					【到達目標】 ・スーパービジョンのもつ3つの機能を、実践場を用いて説明することができる ・自他の経験を振り返り、「人から教わる」際の理想と課題を言語化することができる			
4	【授業単元】 ネットワーク構築に向けた会議運営～準備				12	【授業単元】 スーパービジョン②			
	【到達目標】 ・会議開催に向けて手順をふんだ事前準備を実践することができる ・会議の目的とゴールを明確化することができる ・聞き手は専門職ばかりではないことを考慮した、分かりやすい資料作成ができる ・会議当日の問題予測にも備えた役割分担ができる					【到達目標】 ・ロールプレイを通して、スーパーバイザーとしての感情や思考を客観的に整理することができる ・ロールプレイを通して、スーパーバイザーとして何を意識すべきかを理解する			
5	【授業単元】 ネットワーク構築に向けた会議運営～プレゼンテーション、ソーシャルアクション				13	【授業単元】 事例研究、事例検討①			
	【到達目標】 ・聞き手は専門職ばかりではないことを考慮した、分かりやすい説明ができる ・会議後の地域、社会の変革、クライアントや住民自身に影響を与えたと思われる変化を考察、評価することができる					【到達目標】 ・事例をもとにさまざまな立場から多角的に問題を把握し、疑問を言語化することができる ・事例検討会の目的とゴールを明確化することができる ・開催に向けた事前準備と役割分担ができる			
6	【授業単元】 組織運営～ソーシャルアドミニストレーション①				14	【授業単元】 事例研究、事例検討②			
	【到達目標】 ・事例ロールプレイを通して、施設(事業所)で起きている事柄の何が問題かを考えることができる ・利用者、家族、職員それぞれの感情を言語化することができる ・問題だと捉えた内容について法制度や倫理綱領などを根拠とした論理的説明ができる					【到達目標】 ・参加者の発言機会や気付きを投げかけるファシリテーションを意識することができる ・参加者全員で意見交換をし、検討の結論をまとめることができる ・メンバー相互に客観的評価を行い、自己の気付き、再確認を行うことができる			
7	【授業単元】 組織運営～ソーシャルアドミニストレーション②				15	【授業単元】 定期試験 解説および後期学習内容の振り返り(まとめ)			
	【到達目標】 ・意見の対立への効果的な介入(コンフリクトレゾリューション)を考えることができる ・組織内で生じている問題への解決方法を具体的に考えることができる ・組織内でのサービス評価や資源開発の必要性を提案することができる					【到達目標】 ・後期授業の学習内容から出題 ・定期試験解説、後期学習目標の達成度を振り返り、今後の学習取り組みを考えることができる			
8	【授業単元】 中テスト(第1～7回目までの授業範囲を出題対象とする) 組織運営～ケアカンファレンス				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験(記述形式含む)で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 ・ロールプレイ(利用者、家族、事業所職員) ・事例をもとに考えた組織改善、個別ケア内容等について話し合うことができる ・組織運営の改善も含めた、今後のケア方針について結論をまとめることができる								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
毎授業ごと、科目シラバスから自身の学びのポイントを明確化しましょう。教室の中は安心安全な場として、他者の意見を聴き、話してください。否定せず広い視野で受け止め互いを尊重し、思考を繰り返し、自分の成長に活かしてくだ									

授 業 概 要

科目名	キャリアプランニング3	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	有) 両国あんこあられ本舗 岩佐 浩之				
サブ科目名		学年	3年	授業 形態	講義	総単位数	2	単位	総時間数	30	時間
学科・専攻	ITソーシャルワーカー科										
【授業を通じての到達目標】											
<p>様々な情報をとり、自分の頭で考え、整理し決断できるようになる。 コミュニケーションの柱である、常識・マナー・社会のルールを身に付け実践できるようになる。 自分自身を社会に出て、マーケティングできるようになる。</p>											
【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する)											
<p>流通業界では様々な仕入れ販売の経営経験を持ち、一部上場企業メーカー勤務では、製造から営業経験をし、現在3社を営営するオーナーが教える、社会人としての考え方目標設定の仕方、達成の仕方・人脈の作り方を講義します。 ビジネスだけでなく、個人として必要な生きる力をわかりやすく講義します。また、カウンセラーとして精神的健康の維持・心が壊れない考え方・自分との付き合い方・1対1のコミュニケーション心理・縦の人間関係のコミュニケーションの考え方をわかりやすく講義します。</p>											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
毎回授業の際、資料を配布						世の中の疑問点を探し質問する					
コマ	授業計画					コマ	授業計画				
1	【授業単元】 オリエンテーション 授業の注意事項 【到達目標】 講師自己紹介(注意するコンフォートゾーンを知る) 前期の流れを解説し、前期終了後の自分の姿をイメージする。 各単元の内容の予告編から、内容をイメージし授業に備える。					9	【授業単元】 マーケティング① 【到達目標】 自分という人間を、社会の中で、どうマーケティングするか、マーケティングの仕組みを学び、活用できるようになる。 マーケティング方程式・バリュウプロポジション・キャズム理論などを学びイメージを膨らませる。 【授業単元】 マーケティング②				
2	【授業単元】 基礎編: 求人票の見方・収入の種類・お金の知識 【到達目標】 基本給・社会保障・税金・福利厚生などの関係を理解し、求人票を正しく理解できるようにする。 収入・お金の知識を身に付け、自らの生活を計画的に・安定的に運れるようになる。					10	【到達目標】 自分という人間を、社会の中で、どうマーケティングするか、マーケティングの仕組みを学び、活用できるようになる。 マイケルポータのファイブフォースを学び、マーケティングの仕組みを知る。				
3	【授業単元】 基礎編: 税金・カード・ポイント・仮想通貨・デジタル通貨・現金・金融商品 【到達目標】 お金にまつわる知識を身に付け、収入・財産が守れるようになる。 (相続・根拠当・ブロックチェーンなど)					11	【授業単元】 マーケティング③ 【到達目標】 自分という人間を、社会の中で、どうマーケティングするか、マーケティングの仕組みを学び、活用できるようになる。 マーケティングの考え方を学び、理解し、使えるようになる。				
4	【授業単元】 基礎編: 目的・目標 【到達目標】 目的とは何か・目標とは何かを理解し、設定できるようになる。 トータルパスンについて学び理解する。					12	【授業単元】 世の中 身を守るために知っておきたい法律について学ぶ 【到達目標】 浴びせられる情報を整理して、自分の頭で考える力を身に付ける。 契約自由の原則・刑法について学び理解する。				
5	【授業単元】 基礎編: 人脈 【到達目標】 人脈がなぜ必要かを学び、人脈の整理の仕方・作り方を知る。 実際に経理をしてみる。					13	【授業単元】 ①一軒の家庭に何を援助するか書き出してみる ②車いすの、祖父を連れて、温泉旅行に行くプランを立てる 【到達目標】 ①認知症・アルコール依存症・うつ病・統合失調症・いじめ・リユーマチ子宮がんの家庭にアドバイスをする。 ②電車・車・バリアフリー・温泉旅館・観光地・その他あらゆる情報を取りプランを立ててください。				
6	【授業単元】 基礎編: 自分とのコミュニケーション・1対1のコミュニケーション 組織でのコミュニケーション 【到達目標】 自己覚知(自分の心のクセを知る)自己分析をしてみる。					14	【授業単元】 復習 【到達目標】 1回から13回までの復習と調整 定期試験のポイントを開設する。				
7	【授業単元】 情報源・行動する・決断・習慣と潜在意識 【到達目標】 行動のもとになる情報分析力を身に付ける。 行動とは何かを知る。行動習慣のくせやそこから起こる現象を知る。 潜在意識の大切さを知り、活用できるようになる。					15	【授業単元】 定期試験 振り返り 【到達目標】 1回～14回までの、授業理解度の確認 自分の考えを書く、答えの無い試験問題です。				
8	【授業単元】 中テスト 【到達目標】 1回～7回までの知識の確認					【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、授業評価(平素の学習状況・出席状況など)を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 試験は筆記試験で行う。					
【履修に当たっての心構え・留意点】											
1コマ1コマの授業は、ジグソーパズルの1ピースのようなものです。休むことなく完成させてください。また、休んだ場合は友人に授業内容を確認して補ってください。											

授 業 概 要

科目名	キャリアプランニング3	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	有)両国あんこあられ本舗 岩佐 浩之		
サブ科目名		学年	3年	授業 形態	講義	総単位数	2 単位	総時間数	30 時間
学科・専攻	IT医療ソーシャルワーカー科								
【授業を通じての到達目標】									
<p>様々な情報を取り、自分の頭で考え、整理し決断できるようになる。 コミュニケーションの柱である、常識・マナー・社会のルールを身に付け実践できるようになる。 自分自身を社会に出て、マーケティングできるようになる。</p>									
【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する)									
<p>流通業界では様々な仕入れ販売の経営経験を持ち、一部上場企業メーカー勤務では、製造から営業経験をし、現在3社を経営するオーナーが教える、社会人としての考え方目標設定の仕方、達成の仕方・人脈の作り方を講義します。 ビジネスだけでなく、個人として必要な生きる力をわかりやすく講義します。また、カウンセラーとして精神的健康の維持・心が壊れない考え方・自分との付き合い方・1対1のコミュニケーション心理・縦の人間関係のコミュニケーションの考え方をわかりやすく講義します。</p>									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
毎回授業の際、資料を配布					世の中の疑問点を探し質問する				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 【到達目標】 後期15回の流れの説明と到達地点の確認をイメージする。 各コマの予告編				9	【授業単元】 中テスト 【到達目標】 1回から8回までの復習と調整 中テストによる理解度のチェックをします。			
2	【授業単元】 就職してから必要な知識を身に着ける 【到達目標】 しきたり・マナー・ルール				10	【授業単元】 お金・税金・インボイス制度 【到達目標】 経費について学び理解する。			
3	【授業単元】 就職してから必要な知識を身に着ける 【到達目標】 様々な職業の特徴				11	【授業単元】 ライフプラン 【到達目標】 ライフプランを実際に立てて将来をイメージし書き出す。 相続・根拠について知る。			
4	【授業単元】 就職してから必要な知識を身に着ける 【到達目標】 アイドリングビジネスを学び理解し戦略戦略が立てられる。 顧客は、お金を出して何を求めているのかを学び、戦略戦略が立てられる。 らしさを分析する。				12	【授業単元】 考え方 7つの習慣 【到達目標】 ①主体性を発揮する ②目的を持って始める ③重要事項を優先する			
5	【授業単元】 手紙・はがき・敬語・尊敬語・丁寧語・クッション言葉 【到達目標】 挨拶文・御礼文のルールを学び、書けるようになる。敬語・尊敬語・丁寧語・クッション言葉を学び、使いこなせるようになった。 会話にオーラのある人の生き方を学び習得する。				13	【授業単元】 考え方 7つの習慣 【到達目標】 7つの習慣 ④Win-Winを考える ⑤理解してから理解される ⑥相乗効果を発揮する ⑦刃を研ぐ			
6	【授業単元】 履歴書 【到達目標】 履歴書のルールを学ぶ 自己覚知する。自分の長所を文章にして書き出す。				14	【授業単元】 復習 【到達目標】 1回から13回までの復習と調整 定期試験のポイントを開示する。			
7	【授業単元】 履歴書 【到達目標】 自分のセールスポイントを、原稿用紙に書き出す。				15	【授業単元】 定期試験 振り返り 【到達目標】 1回～14回までの、授業理解度の確認 自分の考えを書く、答えの無い試験問題です。			
8	【授業単元】 経営者の仕事 【到達目標】 経営者の仕事について学ぶ。 世の中の、しきたりについて学び理解する。				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、授業評価(平素の学習状況・出席状況など)を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 試験は筆記試験で行う。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
1コマ1コマの授業は、ジグソーパズルの1ピースのようなものです。休むことなく完成させてください。また、休んだ場合は友人に授業内容を確認して補ってください。									

授 業 概 要

科目名	プロジェクト学習Ⅰ	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	中山 圭太郎		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	3年	授業の 方法	演習	単位数	4 単位	総時間数	120 時間
【授業を通じての到達目標】									
<p>学生が担当するプロジェクトテーマを設定し、自ら調査や実践を通じて問題解決能力や創造性を育む。複数の教科をまたいで実践的な課題に取り組むことで、総合的な能力を身に付ける。また、グループでの協力やコミュニケーション能力も重視する。他者に役立つ成果を生み出す。</p>									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
<p>①チームワーク能力の向上(校外の事業者・関係機関・メンバーと協力して目標達成) ②問題解決能力の習得(実際の課題に取り組みながら、実践的な問題解決能力の獲得) ③クリエイティブ思考の育成(既存の知識やスキルを活用しながら、新たなアイデアやアプローチを生み出すクリエイティブな思考法の養成) ④プロジェクト管理能力の向上(スケジュール管理、リソースの最適利用、成果の評価など、プロジェクト全体の管理能力の向上) 情報サービス業および福祉サービス業における業務経験を有する教員が各人のプロジェクトを支援します。</p>									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
<p>学生は教員が列挙する提携候補リスト(別紙、校外の事業者の約20社)から選んで取り組む。校外の事業者より提供される資料を活用する。これまでの活動(スマホ教室運営、ご当地ゆるスポーツアワード出場、学内文化祭運営、メタバース活用、都知事杯ハッカソンほか受賞)の作品や資料を活かす。</p>					<p>校外の事業者の連携し、プロジェクトテーマを設定し活動する。校外で開催されるコンテストイベントまたはハッカソンイベントにエントリーし、作品開発を行う。(出場するコンテストの候補として、Linked Open Data チャレンジ、アーバンデータチャレンジ、都知事杯オープンデータ・ハッカソン)</p>				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1・2・3・4	<p>【授業単元】 校外の事業者からのヒヤリング・課題設定・チームビルディング・提案書作成・実施計画の策定・プロジェクト進行管理・課題解決の実施</p> <p>【到達目標】 校外の事業者からのヒヤリングを通じて課題を特定し、チームを構築し、提案書を作成する。その後、実施計画を策定し、プロジェクトの進行を管理し、課題を解決する。</p>				33・34・35・36	<p>【授業単元】 プロジェクト進行管理・課題解決の実施・成果の評価・改善提案の検討・改善提案の実行</p> <p>【到達目標】 プロジェクトの進行を効果的に管理し、課題を実践的に解決し、成果を客観的に評価する。その後、改善提案を検討し、実行する。</p>			
5・6・7・8	<p>【授業単元】 校外の事業者からのヒヤリング・課題設定・チームビルディング・提案書作成・実施計画の策定・プロジェクト進行管理・課題解決の実施</p> <p>【到達目標】 校外の事業者からのヒヤリングを通じて課題を特定し、チームを構築し、提案書を作成する。その後、実施計画を策定し、プロジェクトの進行を管理し、課題を解決する。</p>				37・38・39・40	<p>【授業単元】 プロジェクト進行管理・課題解決の実施・成果の評価・改善提案の検討・改善提案の実行</p> <p>【到達目標】 プロジェクトの進行を効果的に管理し、課題を実践的に解決し、成果を客観的に評価する。その後、改善提案を検討し、実行する。</p>			
9・10・11・12	<p>【授業単元】 校外の事業者からのヒヤリング・課題設定・チームビルディング・提案書作成・実施計画の策定・プロジェクト進行管理・課題解決の実施</p> <p>【到達目標】 校外の事業者からのヒヤリングを通じて課題を特定し、チームを構築し、提案書を作成する。その後、実施計画を策定し、プロジェクトの進行を管理し、課題を解決する。</p>				41・42・43・44	<p>【授業単元】 プロジェクト進行管理・課題解決の実施・成果の評価・改善提案の検討・改善提案の実行</p> <p>【到達目標】 プロジェクトの進行を効果的に管理し、課題を実践的に解決し、成果を客観的に評価する。その後、改善提案を検討し、実行する。</p>			
13・14・15・16	<p>【授業単元】 校外の事業者からのヒヤリング・課題設定・チームビルディング・提案書作成・実施計画の策定・プロジェクト進行管理・課題解決の実施</p> <p>【到達目標】 校外の事業者からのヒヤリングを通じて課題を特定し、チームを構築し、提案書を作成する。その後、実施計画を策定し、プロジェクトの進行を管理し、課題を解決する。</p>				45・46・47・48	<p>【授業単元】 プロジェクト進行管理・課題解決の実施・成果の評価・改善提案の検討・改善提案の実行</p> <p>【到達目標】 プロジェクトの進行を効果的に管理し、課題を実践的に解決し、成果を客観的に評価する。その後、改善提案を検討し、実行する。</p>			
17・18・19・20	<p>【授業単元】 校外の事業者からのヒヤリング・課題設定・チームビルディング・提案書作成・実施計画の策定・プロジェクト進行管理・課題解決の実施</p> <p>【到達目標】 校外の事業者からのヒヤリングを通じて課題を特定し、チームを構築し、提案書を作成する。その後、実施計画を策定し、プロジェクトの進行を管理し、課題を解決する。</p>				49・50・51・52	<p>【授業単元】 プロジェクト進行管理・課題解決の実施・成果の評価・改善提案の検討・改善提案の実行</p> <p>【到達目標】 プロジェクトの進行を効果的に管理し、課題を実践的に解決し、成果を客観的に評価する。その後、改善提案を検討し、実行する。</p>			
21・22・23・24	<p>【授業単元】 校外の事業者からのヒヤリング・課題設定・チームビルディング・提案書作成・実施計画の策定・プロジェクト進行管理・課題解決の実施</p> <p>【到達目標】 校外の事業者からのヒヤリングを通じて課題を特定し、チームを構築し、提案書を作成する。その後、実施計画を策定し、プロジェクトの進行を管理し、課題を解決する。</p>				53・54・55・56	<p>【授業単元】 プロジェクト進行管理・課題解決の実施・成果の評価・改善提案の検討・改善提案の実行</p> <p>【到達目標】 プロジェクトの進行を効果的に管理し、課題を実践的に解決し、成果を客観的に評価する。その後、改善提案を検討し、実行する。</p>			
25・26・27・28	<p>【授業単元】 校外の事業者からのヒヤリング・課題設定・チームビルディング・提案書作成・実施計画の策定・プロジェクト進行管理・課題解決の実施</p> <p>【到達目標】 校外の事業者からのヒヤリングを通じて課題を特定し、チームを構築し、提案書を作成する。その後、実施計画を策定し、プロジェクトの進行を管理し、課題を解決する。</p>				57・58・59・60	<p>【授業単元】 定期テスト 振り返り</p> <p>【到達目標】 これまで学んだ知識・技術を活かし、校外の事業者や業界の課題を検討・設定する。設定した課題に対しての解決策を見だし、試作品やサービス改善案を提案する。改善提案を実行した結果を報告し、評価する。(前期定期報告)</p>			
29・30・31・32	<p>【授業単元】 中テスト</p> <p>【到達目標】 これまで学んだ知識・技術を活かし、校外の事業者や業界の課題を検討・設定する。設定した課題に対しての解決策を見だし、試作品やサービス改善案を提案する。(前期中間報告)</p>				【成績評価の方法と基準】				
<p>講義全体を100点として、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点で段階(A~F)で評価する。 各テストはCBT方式(Computer Based Testing、Teams Formsによる試験)を基本とするが、該当授業単元の成果物制作・発表・実技試験をもって相当の評価をすることがある。 小テストは5点満点とし、合計13回行う。中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。小テストと中テストの合計点(80点満点)の1/2(小数点以下切り上げ)を講義全体に占める小テストの点数とする。</p>									
【履修に当たったの心構え・留意点】									
<p>実際の医療福祉分野や情報通信分野の課題を、自らの力で解決していくことを期待します。解決していく過程で、必要な技能を会得していきます。</p>									

授 業 概 要

科目名	プロジェクト学習 I	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(後期)	担当 教員	中山 圭太郎		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	3年	授業の 方法	演習	単位数	4 単位	総時間数	120 時間
【授業を通じての到達目標】									
<p>学生が担当するプロジェクトテーマを設定し、自ら調査や実践を通じて問題解決能力や創造性を育む。複数の教科をまたいで実践的な課題に取り組むことで、総合的な能力を身に付ける。また、グループでの協力やコミュニケーション能力も重視する。他者に役立つ成果を生み出す。前期で取り組んだ内容を評価し、計画・体制見直しや、ピボットする。</p>									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
<p>①チームワーク能力の向上(校外の事業者・関係機関・メンバーと協力して目標達成) ②問題解決能力の習得(実際の課題に取り組みながら、実践的な問題解決能力の獲得) ③クリエイティブ思考の育成(既存の知識やスキルを活用しながら、新たなアイデアやアプローチを生み出すクリエイティブな思考法の養成) ④プロジェクト管理能力の向上(スケジュール管理、リソースの最適利用、成果の評価など、プロジェクト全体の管理能力の向上) 情報サービスおよび福祉サービス業における業務経験を有する教員が各人のプロジェクトを支援します。</p>									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
<p>学生は教員が列挙する提携候補リスト(別紙、校外の事業者の約20社)から選んで取り組む。校外の事業者より提供される資料を活用する。これまでの活動(スマホ教室運営、ご当地ゆるスポーツアワード出場、学内文化祭運営、メタバース活用、都知事杯ハッカソンほか受賞)の作品や資料を活かす。</p>					<p>校外の事業者の連携し、プロジェクトテーマを設定し活動する。校外で開催されるコンテストイベントまたはハッカソンイベントにエントリーし、作品開発を行う。(出場するコンテストの候補として、Linked Open Data チャレンジ、アーバンデータチャレンジ、都知事杯オープンデータ・ハッカソン)</p>				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1・2・3・4	<p>【授業単元】 校外の事業者からのヒヤリング・課題設定・チームビルディング・提案書作成・実施計画の策定・プロジェクト進行管理・課題解決の実施</p> <p>【到達目標】 校外の事業者からのヒヤリングを通じて課題を特定し、チームを構築し、提案書を作成する。その後、実施計画を策定し、プロジェクトの進行を管理し、課題を解決する。</p>				33・34・35・36	<p>【授業単元】 プロジェクト進行管理・課題解決の実施・成果の評価・改善提案の検討・改善提案の実行</p> <p>【到達目標】 プロジェクトの進行を効果的に管理し、課題を実践的に解決し、成果を客観的に評価する。その後、改善提案を検討し、実行する。</p>			
5・6・7・8	<p>【授業単元】 校外の事業者からのヒヤリング・課題設定・チームビルディング・提案書作成・実施計画の策定・プロジェクト進行管理・課題解決の実施</p> <p>【到達目標】 校外の事業者からのヒヤリングを通じて課題を特定し、チームを構築し、提案書を作成する。その後、実施計画を策定し、プロジェクトの進行を管理し、課題を解決する。</p>				37・38・39・40	<p>【授業単元】 プロジェクト進行管理・課題解決の実施・成果の評価・改善提案の検討・改善提案の実行</p> <p>【到達目標】 プロジェクトの進行を効果的に管理し、課題を実践的に解決し、成果を客観的に評価する。その後、改善提案を検討し、実行する。</p>			
9・10・11・12	<p>【授業単元】 校外の事業者からのヒヤリング・課題設定・チームビルディング・提案書作成・実施計画の策定・プロジェクト進行管理・課題解決の実施</p> <p>【到達目標】 校外の事業者からのヒヤリングを通じて課題を特定し、チームを構築し、提案書を作成する。その後、実施計画を策定し、プロジェクトの進行を管理し、課題を解決する。</p>				41・42・43・44	<p>【授業単元】 プロジェクト進行管理・課題解決の実施・成果の評価・改善提案の検討・改善提案の実行</p> <p>【到達目標】 プロジェクトの進行を効果的に管理し、課題を実践的に解決し、成果を客観的に評価する。その後、改善提案を検討し、実行する。</p>			
13・14・15・16	<p>【授業単元】 校外の事業者からのヒヤリング・課題設定・チームビルディング・提案書作成・実施計画の策定・プロジェクト進行管理・課題解決の実施</p> <p>【到達目標】 校外の事業者からのヒヤリングを通じて課題を特定し、チームを構築し、提案書を作成する。その後、実施計画を策定し、プロジェクトの進行を管理し、課題を解決する。</p>				45・46・47・48	<p>【授業単元】 プロジェクト進行管理・課題解決の実施・成果の評価・改善提案の検討・改善提案の実行</p> <p>【到達目標】 プロジェクトの進行を効果的に管理し、課題を実践的に解決し、成果を客観的に評価する。その後、改善提案を検討し、実行する。</p>			
17・18・19・20	<p>【授業単元】 校外の事業者からのヒヤリング・課題設定・チームビルディング・提案書作成・実施計画の策定・プロジェクト進行管理・課題解決の実施</p> <p>【到達目標】 校外の事業者からのヒヤリングを通じて課題を特定し、チームを構築し、提案書を作成する。その後、実施計画を策定し、プロジェクトの進行を管理し、課題を解決する。</p>				49・50・51・52	<p>【授業単元】 プロジェクト進行管理・課題解決の実施・成果の評価・改善提案の検討・改善提案の実行</p> <p>【到達目標】 プロジェクトの進行を効果的に管理し、課題を実践的に解決し、成果を客観的に評価する。その後、改善提案を検討し、実行する。</p>			
21・22・23・24	<p>【授業単元】 校外の事業者からのヒヤリング・課題設定・チームビルディング・提案書作成・実施計画の策定・プロジェクト進行管理・課題解決の実施</p> <p>【到達目標】 校外の事業者からのヒヤリングを通じて課題を特定し、チームを構築し、提案書を作成する。その後、実施計画を策定し、プロジェクトの進行を管理し、課題を解決する。</p>				53・54・55・56	<p>【授業単元】 プロジェクト進行管理・課題解決の実施・成果の評価・改善提案の検討・改善提案の実行</p> <p>【到達目標】 プロジェクトの進行を効果的に管理し、課題を実践的に解決し、成果を客観的に評価する。その後、改善提案を検討し、実行する。</p>			
25・26・27・28	<p>【授業単元】 校外の事業者からのヒヤリング・課題設定・チームビルディング・提案書作成・実施計画の策定・プロジェクト進行管理・課題解決の実施</p> <p>【到達目標】 校外の事業者からのヒヤリングを通じて課題を特定し、チームを構築し、提案書を作成する。その後、実施計画を策定し、プロジェクトの進行を管理し、課題を解決する。</p>				57・58・59・60	<p>【授業単元】 定期テスト 振り返り</p> <p>【到達目標】 これまで学んだ知識・技術を活かし、校外の事業者や業界の課題を検討・設定する。設定した課題に対しての解決策を見いだし、試作品やサービス改善案を提案する。改善提案を実行した結果を報告し、評価する。(後期定期報告)</p>			
29・30・31・32	<p>【授業単元】 中テスト</p> <p>【到達目標】 これまで学んだ知識・技術を活かし、校外の事業者や業界の課題を検討・設定する。設定した課題に対しての解決策を見いだし、試作品やサービス改善案を提案する。(後期中間報告)</p>				<p>【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点として、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点で段階(A~F)で評価する。 各テストはCBT方式(Computer Based Testing、Teams Formsによる試験)を基本とするが、該当授業単元の成果物制作・発表・実技試験をもって相当の評価をすることがある。 小テストは5点満点とし、合計13回行う。中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。小テストと中テストの合計点(80点満点)の1/2(小数点以下切り上げ)を講義全体に占める小テストの点数とする。</p>				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
<p>実際の医療福祉分野や情報通信分野の課題を、自らの力で解決していくことを期待します。解決していく過程で、必要な技能を会得していきます。</p>									

授 業 概 要

科目名	国際教育	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	学科教員				
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	3年	授業の 方法	演習	単位数	1	単位	総時間数	30	時間
【授業を通じての到達目標】											
IT・地域医療に関する海外の先進技術や展開事例についての理解するとともに、文化的背景の異なる地域におけるソーシャルワークの実際について理解を深める											
【学習内容】（どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
学科教員が、海外のソーシャルワーカーの役割や日本と異なる文化や歴史的な背景を踏まえて、ソーシャルワーカーの実際を理解できる授業を通して、ソーシャルワーカーの可能性を感じる											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
授業内の配布資料						予習・復習を授業ごとに実施する					
授業計画											
①現場見学やレクチャーを通して、多様なアプローチ方法を学ぶ ②海外の医療と連携し、生活課題に対応した支援 ③福祉を学ぶ学生との交流を通し、異文化コミュニケーションを体験的に学ぶ ④多くの専門職が関わる施設の実際 ⑤文化・伝統・歴史等に触れながら、国際的な感性を養う ⑥福祉・医療の海外の実際											
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】					
ソーシャルワーカーの役割の違いや文化・歴史的な背景などの違いなど広い視野を持って臨む						授業内の小テスト（課題）の結果をふまえ、A～Fの6段階で評価する。					

授業概要

科目名	ソフトウェア・ハードウェア応用技術	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	中山 圭太郎		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	3年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
ITを活用したサービス、製品、システムおよびソフトウェアを作る人材に必要な基本的知識・技能をもち、実践的な活用能力を身に付ける。									
① 組織および社会の課題に対する、ITを活用した戦略の立案、システムの企画・要件定義に参加する。									
② システムの設計・開発、汎用製品の最適組合せ（インテグレーション）によって、利用者にとって価値の高いシステムを構築する。									
③ サービスの安定的な運用の実現に貢献する。									
【学習内容】 (どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
基本情報処理技術者試験を通じて、ITを活用した戦略の立案、システムの企画・要件定義、設計・開発・運用に関し、知識・技能を身に付ける。また、各人がそれぞれ担当するプロジェクトテーマを設定する。プロジェクトテーマを題材にして、データやアプリケーション等デジタル成果物を開発する実技で使い、理解を深める。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
『情報処理技術者試験 試験要綱・シラバス(Ver.5.3、2024年10月の試験から適用)』を参考にする。					校外の事業者の連携し、プロジェクトテーマを設定し活動する。校外で開催されるコンテストイベントまたはハッカソンイベントにエントリーし、作品開発を行う。(出場するコンテストの候補として、Linked Open Data チャレンジ、アーバンデータチャレンジ、都知事杯オープンデータ・ハッカソン)				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 基礎理論(1)				9	【授業単元】 基礎理論(2)			
	【到達目標】 離散数学、応用数学、情報に関する理論に関する理論について理解する。					【到達目標】 通信に関する理論、計測・制御に関する理論について理解する。			
2	【授業単元】 アルゴリズムとプログラミング(1)				10	【授業単元】 アルゴリズムとプログラミング(1)			
	【到達目標】 データ構造、アルゴリズム、プログラミングについて理解する。					【到達目標】 プログラム言語、その他の言語について理解する。			
3	【授業単元】 コンピュータの構成要素(1)				11	【授業単元】 コンピュータの構成要素(3)			
	【到達目標】 プロセッサ、メモリ、バスについて理解する。					【到達目標】 システムの構成、システムの評価指標について理解する。			
4	【授業単元】 システムの構成要素(2)				12	【授業単元】 ソフトウェア(2)			
	【到達目標】 入出力デバイス、入出力装置について理解する。					【到達目標】 開発ツール、オープンソースソフトウェアについて理解する。			
5	【授業単元】 ソフトウェア(1)				13	【授業単元】 ハードウェア(2)			
	【到達目標】 オペレーティングシステム、ミドルウェア、ファイルシステムについて理解する。					【到達目標】 ハードウェア(論理設計、構成部品)について理解する。			
6	【授業単元】 ハードウェア(1)				14	【授業単元】 ユーザーインターフェース(2)			
	【到達目標】 ハードウェア(電気・電子回路、機械・制御)について理解する。					【到達目標】 UX/UIデザインについて理解する。			
7	【授業単元】 ユーザーインターフェース(1)				15	【授業単元】 これまでの振り返り 定期試験(60点)			
	【到達目標】 ユーザーインターフェース技術について理解する。					【到達目標】 第14回までの授業内容を理解できている。			
8	【授業単元】 中テスト				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 これまで学んだ知識・技術を活かし、ソフトウェア・ハードウェアを含むシステム設計を行う。				講義全体を100点として、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点で段階(A~F)で評価する。 各テストはCBT方式(Computer Based Testing、Teams Formsによる試験)を基本とするが、該当授業単元の成果物制作・発表・実技試験をもって相当の評価をすることがある。 小テストは5点満点とし、合計13回行う。中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。小テストと中テストの合計点(80点満点)の1/2(小数点以下切り上げ)を講義全体に占める小テストの点数とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
社会福祉分野の課題に対し、ソフトウェア・ハードウェア応用技術を用いて探求することを期待します。探求の過程で、必要な情報テクノロジーを会得していきます。									

授 業 概 要

科目名	データベースとネットワーク・セキュリティ応用技術	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	中山 圭太郎		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	3年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
ITを活用したサービス、製品、システムおよびソフトウェアを作る人材に必要な基本的知識・技能をもち、実践的な活用能力を身に付ける。									
① 組織および社会の課題に対する、ITを活用した戦略の立案、システムの企画・要件定義に参加する。									
② システムの設計・開発、汎用製品の最適組合せ(インテグレーション)によって、利用者にとって価値の高いシステムを構築する。									
③ サービスの安定的な運用の実現に貢献する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
基本情報処理技術者試験を通じて、ITを活用した戦略の立案、システムの企画・要件定義、設計・開発・運用に関し、知識・技能を身に付ける。また、各人がそれぞれ担当するプロジェクトテーマを設定する。プロジェクトテーマを題材にして、データやアプリケーション等デジタル成果物を開発する実技で使い、理解を深める。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
『情報処理技術者試験 試験要綱・シラバス(Ver.5.3、2024年10月の試験から適用)』を参考にする。					校外の事業者の連携し、プロジェクトテーマを設定し活動する。校外で開催されるコンテストイベントまたはハッカソンイベントにエントリーし、作品開発を行う。(出場するコンテストの候補として、Linked Open Data チャレンジ、アーバンデータチャレンジ、都知事杯オープンデータ・ハッカソン)				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 基礎理論(1)				9	【授業単元】 基礎理論(2)			
	【到達目標】 離散数学、応用数学について理解する。					【到達目標】 情報に関する理論、通信に関する理論、計測・制御に関する理論について理解する。			
2	【授業単元】 情報メディア(1)				10	【授業単元】 情報メディア(2)			
	【到達目標】 マルチメディア技術について理解する。					【到達目標】 マルチメディア応用について理解する。			
3	【授業単元】 データベース(1)				11	【授業単元】 データベース(2)			
	【到達目標】 データベース方式、データベース設計、データ操作、トランザクション処理について理解する。					【到達目標】 データベース応用について理解する。			
4	【授業単元】 ネットワーク(1)				12	【授業単元】 ネットワーク(2)			
	【到達目標】 ネットワーク方式、データ通信と制御、通信プロトコルについて理解する。					【到達目標】 ネットワーク管理、ネットワーク応用について理解する。			
5	【授業単元】 セキュリティ(1)				13	【授業単元】 セキュリティ(2)			
	【到達目標】 情報セキュリティ、情報セキュリティ管理について理解する。					【到達目標】 セキュリティ技術評価、情報セキュリティ対策、セキュリティ実装技術について理解する。			
6	【授業単元】 システム開発技術(1)				14	【授業単元】 システム開発技術(2)			
	【到達目標】 システム要件定義・ソフトウェア要件定義、設計、実装・構築について理解する。					【到達目標】 統合・テスト、導入・受入れ支援、保守・廃棄について理解する。			
7	【授業単元】 情報関連法規およびビジネス知識				15	【授業単元】 これまでの振り返り 定期試験(80点)			
	【到達目標】 企業活動(経営・組織論、業務分析・データ活用、会計・財務)、法務(知的財産権、セキュリティ関連法規、労働関連・取引関連法規、その他の法律・ガイドライン・技術者倫理、標準化関連)について理解する。					【到達目標】 第14回までの授業内容を理解できている。			
8	【授業単元】 中テスト				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点として、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点で段階(A~F)で評価する。 各テストはCBT方式(Computer Based Testing、Teams Formsによる試験)を基本とするが、該当授業単元の成果物制作・発表・実技試験をもって相当の評価をすることがある。 小テストは5点満点とし、合計13回行う。中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。小テストと中テストの合計点(80点満点)の1/2(小数点以下切り上げ)を講義全体に占める小テストの点数とする。				
	【到達目標】 これまで学んだ知識・技術を活かしてデータベースとネットワーク・セキュリティを含むシステム設計を行う。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
社会福祉分野の課題に対し、データベースとネットワーク・セキュリティ応用技術を用いて探求することを期待します。探求の過程で、必要な情報テクノロジーを会得していきます。									

授 業 概 要

科目名	アルゴリズム応用技術	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期集中	担当 教員	中山 圭太郎		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	3年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
ITを活用したサービス、製品、システムおよびソフトウェアを作る人材に必要な応用的知識・技能を身に付ける。以下を業務を独力で実行する能力を身に付ける。									
① 組織及び社会の課題に対する、ITを活用した戦略の立案、システムの企画・要件定義を行う。									
② システムの設計・開発、汎用製品の最適組合せ(インテグレーション)によって、利用者にとって価値の高いシステムを構築する。									
③ システムの中実的実用を実現する									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
基本情報処理技術者試験を通じて、ITを活用した戦略の立案、システムの企画・要件定義、設計・開発・運用に関し、知識・技能を身に付ける。各人がそれぞれ担当するプロジェクトテーマを設定する。プロジェクトテーマを題材にして、独力でデータやアプリケーション等の成果物を開発する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
使用教科書『出るとこだけ!基本情報技術者科目B』					校外の事業者の連携し、プロジェクトテーマを設定し活動する。校外で開催されるコンテストイベントまたはハッカソンイベントにエントリーし、作品開発を行う。(出場するコンテストの候補として、Linked Open Data チャレンジ、アーバンデータチャレンジ、都知事杯オープンデータ・ハッカソン)				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 アルゴリズムの基本概念				9	【授業単元】 総合演習1			
	【到達目標】 アルゴリズムとは何か、アルゴリズムの定義と特徴を理解する。					【到達目標】 プロジェクトテーマを題材に、実践的なアルゴリズム設計演習を行う。			
2	【授業単元】 フローチャート				10	【授業単元】 総合演習2			
	【到達目標】 アルゴリズムの表現方法(擬似コード、フローチャートなど)を理解する。					【到達目標】 プロジェクトテーマを題材に、実践的なアルゴリズム設計演習を行う。			
3	【授業単元】 基本的なアルゴリズム1				11	【授業単元】 総合演習3			
	【到達目標】 探索アルゴリズム(線形探索、二分探索など)を理解する。					【到達目標】 プロジェクトテーマを題材に、実践的なアルゴリズム設計演習を行う。			
4	【授業単元】 基本的なアルゴリズム2				12	【授業単元】 総合演習4			
	【到達目標】 ソートングアルゴリズム(バブルソート、クイックソートなど)を理解する。					【到達目標】 プロジェクトテーマを題材に、実践的なアルゴリズム設計演習を行う。			
5	【授業単元】 基本的なアルゴリズム3				13	【授業単元】 総合演習5			
	【到達目標】 再帰アルゴリズムを理解する。					【到達目標】 プロジェクトテーマを題材に、実践的なアルゴリズム設計演習を行う。			
6	【授業単元】 応用アルゴリズム				14	【授業単元】 総合演習6			
	【到達目標】 グラフアルゴリズム(最短経路、最小全域木など)、動的計画法を理解する。					【到達目標】 プロジェクトテーマを題材に、実践的なアルゴリズム設計演習を行う。			
7	【授業単元】 データ構造				15	【授業単元】 これまでの振り返り 定期試験(60点)			
	【到達目標】 配列、リスト、スタック、キュー、木構造(二分木、ヒープ、AVL木など)、ハッシュテーブルについて理解する。					【到達目標】 総合演習6回で制作したアルゴリズムの発表を行う。アルゴリズムをデモンストレーションし、正しく動作する。総合演習6回を含む第14回までの授業内容を理解できている。			
8	【授業単元】 中テスト				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点として、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点で段階(A~F)で評価する。 各テストはCBT方式(Computer Based Testing、Teams Formsによる試験)を基本とするが、該当授業単元の成果物制作・発表・実技試験をもって相当の評価をすることがある。 小テストは5点満点とし、合計13回行う。中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。小テストと中テストの合計点(80点満点)の1/2(小数点以下切り上げ)を講義全体に占める小テストの点数とする。				
	【到達目標】 出題される問題に対して、アルゴリズムを設計して、プログラムを制作し、正しく動作する。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
設定するプロジェクトテーマを題材に、実践的なアルゴリズム設計演習を行ない、探求することを期待します。探求の過程で、必要な情報テクノロジーを会得していきます。									

授 業 概 要

科目名	XTechのケースワーク I	必修選択の別	必修	開講区分	後期	担当教員	高橋 利明		
学科コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	3年	授業の方法	演習	単位数	2 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】									
ITの活用により社会課題を解決に取り組むさまざまな事例について学び、×Techによる課題解決をデザインするための企画力を養う。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
社会福祉士・介護福祉士として介護現場で経験を積み、専門学校で介護福祉科の学科長としての経験を有している。さらに、社会福祉法人の特別養護老人ホームにおいて、施設長として介護ロボット導入やIGT化に取り組んだ経験をもとに、現在は介護施設のDXコンサルタントとして活動している教員が講義を展開する。授業展開は、グループでの活動を主とする。授業単元において最適な特別講師を交え、対話とワークを中心に展開する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
ソーシャルビジネス事例一覧 令和5年「情報通信に関する現状報告」					国内外の人々の生活、社会情勢に気を配り、社会課題とは何か？なぜその課題があるのか？という視点を持ち続けること				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 科目オリエンテーション				9	【授業単元】 社会課題解決事例を知る②			
	【到達目標】 「社会課題解決」に興味を持つことができる					【到達目標】 「その人らしく働く」環境の整え方を知る			
2	【授業単元】 社会課題とは何か？①				10	【授業単元】 社会課題解決事例を知る③			
	【到達目標】 社会課題とは何かを理解することができる					【到達目標】 障害を持つ方の社会参加を促進する事例から学ぶ			
3	【授業単元】 社会課題とは何か？②				11	【授業単元】 社会課題解決事例を知る④			
	【到達目標】 社会課題解決の事例を知る					【到達目標】 障害を持つ方の社会参加を促進する事例から学ぶ			
4	【授業単元】 社会課題とは何か？③				12	【授業単元】 ソーシャルビジネスの事例を学ぶ①			
	【到達目標】 社会課題解決の事例を知る					【到達目標】 社会課題をビジネスで解決するアイデアや企業を知る			
5	【授業単元】 ICTの現状①				13	【授業単元】 ソーシャルビジネスの事例を学ぶ②			
	【到達目標】 情報通信白書から、ICTの現状を理解する					【到達目標】 社会課題をビジネスで解決するアイデアや企業を知る			
6	【授業単元】 ICTの現状②				14	【授業単元】 ソーシャルビジネスの事例を学ぶ③			
	【到達目標】 情報通信白書から、ICTの現状を理解する					【到達目標】 社会課題をビジネスで解決するアイデアや企業を知る			
7	【授業単元】 ICTを活用した問題解決事例①				15	【授業単元】 ICTと社会課題について理解する			
	【到達目標】 高齢者施設でのICT導入事例を知る					【到達目標】 ソーシャルワーカーとしての課題解決に向かう視点を持つICTの有効活用の方法を理解する			
8	【授業単元】 社会課程、ICTの現状を理解する				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 7回目までの内容を振り返ることができる								
【履修に当たっての心構え・留意点】									

授 業 概 要

科目名	ディープラーニングの概要と手法	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	中山 圭太郎		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	3年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
ディープラーニングの基礎知識を有し、適切な活用方針を決定して、事業活用する能力や知識を身に付けます。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
ディープラーニングの基礎知識から、具体的な手法や実践的な活用方法までを、実際にリリースされているAIサービスを用いて行ない、理論と実践の両面から理解を深める。教材ツールとして、Neural Network Console、MatrixFlow、Auto ML、Azure Machine Learning Studio、IBM Watson、WRTN他を活用する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
Neural Network Console、MatrixFlow、Auto ML、Azure Machine Learning Studio、IBM Watson、WRTNを利用する。これらツールは、機能や価格等の条件で見直すことがある。その他 AIの業界動向をウオッチして、リリースされる新しいツールを採用することがある。					校外で開催されるデジタル関連コンテストイベントにエントリーし、ディープラーニングを活用した作品開発を行う。(出場するコンテストの候補として、Linked Open Data チャレンジ、アーバンデータチャレンジ、チャレンジ!オープンガバナンス)				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 ディープラーニングの基礎				9	【授業単元】 ディープラーニングの実践2			
	【到達目標】 ディープラーニングとは何か、ニューラルネットワークの仕組みについて理解する。					【到達目標】 MatrixFlowの概要と特徴、プログラミング不要のAI構築、数値予測タスクの実装を行う。			
2	【授業単元】 ディープラーニングの主要手法1				10	【授業単元】 ディープラーニングの実践3			
	【到達目標】 畳み込みニューラルネットワーク(CNN)、画像認識への応用について理解する。					【到達目標】 Auto MLの概要と特徴、自動モデル構築と最適化、分類タスクの自動化を実装する。			
3	【授業単元】 ディープラーニングの主要手法2				11	【授業単元】 ディープラーニングの実践4			
	【到達目標】 再帰型ニューラルネットワーク(RNN)、時系列データ処理への応用、RNNの構造と系列データ処理の仕組みについて理解する。					【到達目標】 Azure Machine Learning Studioの概要、機械学習パイプラインの構築、自然言語処理タスクを実装する。			
4	【授業単元】 ディープラーニングの主要手法3				12	【授業単元】 ディープラーニングの実践5			
	【到達目標】 自己符号化器(Autoencoder)、次元圧縮と特徴抽出への応用について理解する。					【到達目標】 IBM Watsonの概要と特徴、対話システムの構築、画像認識タスクを実装する。			
5	【授業単元】 ディープラーニングの主要手法4				13	【授業単元】 ディープラーニングの応用と課題			
	【到達目標】 生成的adversarial ネットワーク(GAN)、画像生成や変換への応用について理解する。					【到達目標】 ディープラーニングの応用分野、倫理的な課題と対策、実世界への適用における留意点について検討・議論する。			
6	【授業単元】 ディープラーニングの主要手法5				14	【授業単元】 ディープラーニングの発展			
	【到達目標】 自然言語処理への応用、言語モデルと系列変換タスクについて理解する。					【到達目標】 ディープラーニングの発展的活用するよう、社会問題やほかの教科の課題に連携して取り組めるようについて検討・議論する。			
7	【授業単元】 ディープラーニングの実践1				15	【授業単元】 これまでの振り返り 定期試験(80点)			
	【到達目標】 Neural Network Consoleの概要と特徴、GUIベースのモデル構築と学習、画像分類タスクの実装を行う。					【到達目標】 第14回までの授業内容を理解できている。			
8	【授業単元】 中テスト				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点として、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点で段階(A~F)で評価する。 小テストおよび中テストはCBT方式(Computer Based Testing、Teams Formsによる試験)で行う。 小テストは5点満点とし、合計13回行う。中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。小テストと中テストの合計点(80点満点)の1/2(小数点以下切り上げ)を講義全体に占める小テストの点数とする。小テスト・中テストは該当授業単元の成果物・発表をもって代替して評価することがある。				
	【到達目標】 AIツールを用いて								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
社会福祉分野の課題をAIを活用して、探求することを期待します。探求の過程で、必要な情報テクノロジーを会得していきます。									

授 業 概 要

科目名	ディープラーニングの概要と手法	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	中山 圭太郎		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	3年	授業の 方法	講義	単位数	4 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】									
ディープラーニングの基礎知識を有し、適切な活用方針を決定して、事業活用する能力や知識を身に付けます。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
ディープラーニングの基礎知識から、具体的な手法や実践的な活用方法までを、実際にリリースされているAIサービスを用いて行ない、理論と実践の両面から理解を深める。これまでの基礎知識を踏まえて、ディープラーニングの主要な手法を詳しく学習する。教材ツールとして、Neural Network Console、MatrixFlow、Auto ML、Azure Machine Learning Studio、IBM Watson、WRTN他を活用する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
Neural Network Console、MatrixFlow、Auto ML、Azure Machine Learning Studio、IBM Watson、WRTNを利用する。これらツールは、機能や価格等の条件で見直すことがある。その他 AIの業界動向をウォッチして、リリースされる新しいツールを採用することがある。					校外で開催されるデジタル関連コンテストイベントにエントリーし、ディープラーニングを活用した作品開発を行う。(出場するコンテストの候補として、Linked Open Data チャレンジ、アーバンデータチャレンジ、都知事杯オープンデータ・ハッカソン)				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1 ・ 2	【授業単元】 ディープラーニングの基礎復習				17 ・ 18	【授業単元】 ディープラーニングの実践2			
	【到達目標】 ディープラーニングの基本概念の復習、ニューラルネットワークの仕組みと特徴					【到達目標】 MatrixFlowの概要と特徴、プログラミング不要のAI構築、数値予測タスクの実装を行う。			
3 ・ 4	【授業単元】 ディープラーニングの主要手法1				19 ・ 20	【授業単元】 ディープラーニングの実践3			
	【到達目標】 畳み込みニューラルネットワーク(CNN)の構造と特徴抽出の仕組み、画像認識への応用例を実装する。CNNの発展系について学ぶ。					【到達目標】 Auto MLの概要と特徴、自動モデル構築と最適化、分類タスクの自動化を実装する。			
5 ・ 6	【授業単元】 ディープラーニングの主要手法2				21 ・ 22	【授業単元】 ディープラーニングの実践4			
	【到達目標】 再帰型ニューラルネットワーク(RNN)、時系列データ処理への応用、RNNの構造と系列データ処理例を実装する。改良型RNNについて学ぶ。					【到達目標】 Azure Machine Learning Studioの概要、機械学習パイプラインの構築、自然言語処理タスクを実装する。			
7 ・ 8	【授業単元】 ディープラーニングの主要手法3				23 ・ 24	【授業単元】 ディープラーニングの実践5			
	【到達目標】 自己符号化器(Autoencoder)、次元圧縮と特徴抽出への応用例を実装する。					【到達目標】 IBM Watsonの概要と特徴、対話システムの構築、画像認識タスクを実装する。			
9 ・ 10	【授業単元】 ディープラーニングの主要手法4				25 ・ 26	【授業単元】 ディープラーニングの応用と課題			
	【到達目標】 生成的adversarial ネットワーク(GAN)、画像生成や変換への応用例を実装する。					【達成目標】 ディープラーニングの応用分野、倫理的な課題と対策、実世界への適用における留意点について検討・議論する。			
11 ・ 12	【授業単元】 ディープラーニングの主要手法5				27 ・ 28	【授業単元】 ディープラーニングの展望			
	【到達目標】 自然言語処理への応用、言語モデルと系列変換タスクについて実装する。					【到達目標】 ディープラーニングの発展的活用するよう、社会問題やほかの教科の課題に連携して取り組む内容について検討・議論する。			
13 ・ 14	【授業単元】 ディープラーニングの実践1				29 ・ 30	【授業単元】 これまでの振り返り 定期試験(80点)			
	【到達目標】 Neural Network Consoleの概要と特徴、GUIベースのモデル構築と学習、画像分類タスクの実装を行う。					【到達目標】 第14回までの授業内容を理解できている。			
15 ・ 16	【授業単元】 中テスト				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 出題される課題に対して、各種のAIツールを用いて、回答を導き出す。				講義全体を100点として、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点で段階(A~F)で評価する。 各テストはCBT方式(Computer Based Testing、Teams Forms)による試験を基本とするが、該当授業単元の成果物制作・発表・実技試験をもって相当の評価をすることがある。 小テストは5点満点とし、合計13回行う。中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。小テストと中テストの合計点(80点満点)の1/2(小数点以下切り上げ)を講義全体に占める小テストの点数とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
社会福祉分野の課題をAIを活用して、探求することを期待します。探求の過程で、必要な情報テクノロジーを会得していきます。									

授業概要

科目名	基本情報技術者試験対策	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	中山 圭太郎		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	3年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
ITを活用したサービス、製品、システムおよびソフトウェアを作る人材に必要な基本的知識・技能をもち、実践的な活用能力を身に付ける。									
① 組織および社会の課題に対する、ITを活用した戦略の立案、システムの企画・要件定義に参加する。									
② システムの設計・開発、汎用製品の最適組合せ(インテグレーション)によって、利用者にとって価値の高いシステムを構築する。									
③ サービスの安定的な運用の実現に貢献する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
基本情報処理技術者試験対策を通じて、ITを活用した戦略の立案、システムの企画・要件定義、設計・開発・運用に関し、知識・技能を身に付ける。各人がそれぞれ担当するプロジェクトテーマを設定する。プロジェクトテーマを題材にして、データやアプリケーション等を開発する実技で使い、理解を深める。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
使用教科書『出るとこだけ!基本情報技術者科目B』。また、『情報処理技術者試験 試験要綱・シラバス(Ver.5.3、2024年10月の試験から適用)』を参考にす					校外の事業者の選抜し、プロジェクトテーマを設定し活動する。校外で開催されるコンテストイベントまたはハッカソンイベントにエントリーし、作品開発を行う。(出場するコンテストの候補として、Linked Open Data チャレンジ、アーバンデータチャレンジ、都知事杯オープンデータ・ハッカソン)				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 基礎理論				9	【授業単元】 情報メディア			
	【到達目標】 離散数学、応用数学、情報に関する理論、通信に関する理論、計測・制御に関する理論について理解する。					【到達目標】 マルチメディア技術、マルチメディア応用について理解する。			
2	【授業単元】 アルゴリズムとプログラミング				10	【授業単元】 データベース			
	【到達目標】 データ構造、アルゴリズム、プロシミュラ、プログラム言語、その他の言語について理解する。					【到達目標】 データベース方式、データベース設計、データ操作、トランザクション処理、データベース応用について理解する。			
3	【授業単元】 コンピュータの構成要素				11	【授業単元】 ネットワーク			
	【到達目標】 プロセッサ、メモリ、バス、入出力デバイス、入出力装置について理解する。					【到達目標】 ネットワーク方式、データ通信と制御、通信プロトコル、ネットワーク管理、ネットワーク応用について理解する。			
4	【授業単元】 システムの構成要素				12	【授業単元】 セキュリティ			
	【到達目標】 システムの構成、システムの評価指標について理解する。					【到達目標】 情報セキュリティ、情報セキュリティ管理、セキュリティ技術評価、情報セキュリティ対策、セキュリティ実装技術について理解する。			
5	【授業単元】 ソフトウェア				13	【授業単元】 システム開発技術			
	【到達目標】 オペレーティングシステム、ミドルウェア、ファイルシステム、開発ツール、オープンソースソフトウェアについて理解する。					【到達目標】 システム要件定義・ソフトウェア要件定義、設計、実装・構築、統合・テスト、導入・受入れ支援、保守・廃棄について理解する。			
6	【授業単元】 ハードウェア				14	【授業単元】 情報関連法規及びビジネス知識			
	【到達目標】 ハードウェア(電気・電子回路、機械・制御、論理設計、構成部品)について理解する。					【到達目標】 企業活動(経営・組織論、業務分析・データ活用、会計・財務)、法務(知的財産権、セキュリティ関連法規、労働関連・取引関連法規、その他の法律・ガイドライン・技術者倫理、標準化関連)について理解する。			
7	【授業単元】 ユーザーインターフェース				15	【授業単元】 これまでの振り返り 定期テスト(60点)			
	【到達目標】 ユーザーインターフェイス技術、UX/UIデザインについて理解する。					【到達目標】 これまで学んだ知識・技術を活かし、医療福祉分野の課題を設定・検討し、解決に資するアプリケーションソフトを実装する。第14回までの授業内容を理解する。			
8	【授業単元】 中テスト				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 これまで学んだ知識・技術を活かし、医療福祉分野の課題を設定・検討し、解決に資するアプリケーションソフトを実装する。その際、指定のクラウドサービスまたはパッケージソフトを用いて開発する。				講義全体を100点として、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点で段階(A~F)で評価する。 各テストはCBT方式(Computer Based Testing、Teams Formsによる試験)を基本とするが、該当授業単元の成果物制作・発表・実技試験をもって相当の評価をすることがある。 小テストは5点満点とし、合計13回行う。中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。小テストと中テストの合計点(80点満点)の1/2(小数点以下切り上げ)を講義全体に占める小テストの点数とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
社会福祉分野の課題を、探求することを期待します。探求の過程で、必要な情報テクノロジーを会得していきます。									

授 業 概 要

科目名	社会福祉の原理と政策	必修 選択の別	必修	開講 区分	集中	担当 教員	内藤 博幸		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	3年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
現代社会における福祉制度や意義や理念、福祉政策との関係について理解し、その概要を説明できる。福祉政策におけるニーズと資源について理解する。福祉政策の課題について理解し、解決策を模索する。福祉の原理をめぐり理論と哲学について理解し、福祉国家論の基本を説明できるようにする。福祉政策の構成要素(福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割)について理解する。福祉政策と関連政策(教育政策、住宅政策、労働政策等)の関係について理解し、市場経済における労働・教育と福祉政策との関係を概説できるようにする。									
【学習内容】									
福祉国家及び福祉政策に関する研究経験のある教員が、現代社会における福祉政策を理解するための授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
「最新 社会福祉士養成講座4 社会福祉の原理と政策」中央法規					授業を受けたその日のうちに、今一度内容を確認することが重要です。そこで、必ず疑問点が、見えてくるはずですよ。				
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 社会福祉の思想・哲学 P48～59 福祉政策において重要な概念・理念 P119～131				9	【授業単元】 男女共同参画社会と母子家庭の現状 P200			
	【到達目標】 ・福祉政策の下となった理念の変遷を説明できる ・自由主義・社会主義・保守主義などのイデオロギーを理解し簡単な説明ができる ・社会権、ノーマライゼーション、福祉多元主義など重要な用語の解説ができる ・ウェルフェアからワークフェアへの意味を解説できる					【到達目標】 ・女性解放運動(フェミニズム運動)の簡単な歴史を解説できる ・男女共同参画社会の目的は何かを解説できる ・男女平等に関する国際指標をあげ、日本の位置を説明できる ・安倍内閣の女性政策を説明できる			
2	【授業単元】 福祉政策におけるニーズと資源(リソース) P134～163				10	【授業単元】 福祉国家の類型 P67～88 P282～288			
	【到達目標】 ・非貨幣ニードという発想が生まれた背景を解説できる ・ブラッドショーのニード分類を理解し、解説することができる。 ・ニーズ(必要)とデマンド(需要)を解説できる ・必要原則と貢献原則 報酬と用具の用語解説ができる					【到達目標】 ・先進各国の社会保障費の現状を解説できる ・テイタムの福祉国家の分類を説明できる ・E.アンデルセンの福祉国家レジームを解説できる ・ウイレンスキーの福祉国家収斂説を説明できる			
3	【授業単元】 福祉政策と資源配分 P169～177 分配の正義 P148～150				11	【授業単元】 アメリカの社会保障制度 P289～295			
	【到達目標】 ・ロールズの格差原理を解説できる ・パレート効率性を理解する ・現金給付と現物給付の長所・短所をあげることができる					【到達目標】 ・アメリカの医療制度を解説できる ・アメリカの年金制度を解説できる ・アメリカの高齢者政策を解説できる			
4	【授業単元】 福祉サービスの供給 P254～271				12	【授業単元】 イギリスの社会保障制度 P289～295			
	【到達目標】 ・ウルフenden報告の福祉ミックス論を解説できる ・「平行棒理論」と「繰り出し梯子理論」を解説できる ・PFIや指定管理者制度などNPMについて説明できる ・ベストの「福祉トライアングル」を説明できる					【到達目標】 ・イギリスの医療制度を解説できる ・イギリスの年金制度を解説できる ・イギリスの社会保障政策の流れを解説できる			
5	【授業単元】 福祉政策と保健医療政策 P202 P224～227 福祉政策と教育政策 P228～232				13	【授業単元】 フランス・ドイツ・スウェーデンの社会保障体制 P289～295			
	【到達目標】 ・後期高齢者医療制度を説明できる ・地域完結型医療への転換を説明できる ・特別支援学校と就学支援制度を簡潔に理解する					【到達目標】 ・スウェーデンのエーデル改革を解説できる ・ドイツのハルトツ改革を解説できる ・フランスの一般社会拠出金制度を説明できる			
6	【授業単元】 福祉政策と住宅政策 P233～238				14	【授業単元】 今日の我が国の福祉制度の課題			
	【到達目標】 ・老人保健施設、軽費老人ホーム、サ高住、特養の違いを説明できる ・住宅セーフティネット法の特徴をひとつ述べることができる。 ・住宅政策の課題をあげられる					【到達目標】 ・岸田首相の異次元の少子化対策の内容を解説できる ・岸田内閣の掲げる「新しい資本主義」とは何かを説明できる ・菅義偉内閣の子ども基本法制定と子ども家庭庁の新設について解説できる ・財政の問題を語るることができる			
7	【授業単元】 福祉政策と災害政策 P245～251				15	【授業単元】 社会福祉政策と理念の総復習			
	【到達目標】 ・民生委員と避難行動要支援者登録制度について説明できる ・生活支援相談員の職務を解説できる ・社協のボランティアコーディネータを説明できる ・被災者生活再建支援法を解説できる					【到達目標】 ・グループ学習で、お互いの知識を確認する ・試験は60%以上の正解率			
8	【授業単元】 福祉政策と雇用政策 P239～244				【成績評価の方法と基準】 小テスト 毎回 5点満点 中テスト 第8回授業 15点満点 定期試験 15回授業 60点満点 * 小テスト・中テストは合計点を ÷2(小数点以下切り上げ)とし、定期試験と合計してAからFの6段階で評価を行う。				
	【到達目標】 ・福祉国家の福祉政策の重要性を説明できる ・フレキシキュリティ、ワークフェア、アクティベーションの違いを明確に説明できる ・求職者支援制度を説明できる ・最低賃金制度に関しての一通りの説明ができる								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
配布プリントに解答を書き込むだけでなく、気が付いたことや理解に役立つことと思ったら、どんどんメモを取っていくことです。									

授 業 概 要

科目名	社会福祉調査の基礎		必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	福田 真清	
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科		学年	3年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数 30 時間
【授業を通じての到達目標】									
<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉調査の意義と目的、方法の概要を理解する。 ・統計法の概要、社会福祉調査における倫理や個人情報保護について理解する。 ・量的調査と質的調査の方法、ITを活用した社会福祉調査の方法を理解する。 									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
障害当事者やその家族を対象にした調査研究や福祉サービス事業所における管理者等で培った知識と経験を活用し、国家試験はもとより、実践現場でも応用可能な知識が習得できるよう、体系的なステップで進めていく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編(2021)『社会福祉調査の基礎』中央法規					テキストと授業で配布するレジュメの復習を勧める。本科目の受講にあたっては各授業に1時間の自宅学習(予習・復習等)を必要とする。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション、社会福祉調査の種類 【到達目標】 ・社会福祉調査の種類 が説明できる。				9	【授業単元】 質的調査方法論の主なアプローチ 【到達目標】 ・対象者の選定 ・質的調査の方法 が説明できる。			
2	【授業単元】 社会福祉調査の展開、統計法 【到達目標】 ・ソーシャルワーカーが社会福祉調査に取り組む意義 ・統計法の5つのポイント が説明できる。				10	【授業単元】 質的データの整理と分析 【到達目標】 ・データ分析のための基礎的作業の手順 ・データの分析方法の特徴 が説明できる。			
3	【授業単元】 社会福祉調査の倫理と個人情報保護 【到達目標】 ・社会福祉調査における倫理的配慮 ・OECD8原則と個人情報保護法のポイント が説明できる。				11	【授業単元】 プログラム評価、実践評価 【到達目標】 ・プログラム評価の種類 ・シングル・システム・デザインに基づく評価方法 が説明できる。			
4	【授業単元】 社会福祉調査のデザイン 【到達目標】 ・「演繹的」「帰納的」の違い ・量的調査の種類 が説明できる。				12	【授業単元】 振り返り①(社会福祉調査の基礎的知識) 【到達目標】 ・社会福祉調査に関する基礎的知識の定着を図る。			
5	【授業単元】 対象者の選定、測定 【到達目標】 ・対象者の選定 ・尺度4種類の特徴 が説明できる。				13	【授業単元】 振り返り②(量的調査) 【到達目標】 量的調査に関する基礎的知識の定着を図る。			
6	【授業単元】 データの収集方法 【到達目標】 ・質問紙の配布と回収の方法 ・質問紙を作成するときの留意点 が説明できる。				14	【授業単元】 振り返り③(質的調査) 【到達目標】 質的調査、ソーシャルワークにおける評価に関する基礎的知識の定着を図る。			
7	【授業単元】 量的データの整理と分析 【到達目標】 ・データ分析のための基礎的作業の手順 ・データの視覚化 ・基本的な検定方法の種類と特徴 が説明できる。				15	【授業単元】 社会福祉調査の展望、試験 【到達目標】 ・新しい調査手法 が説明できる。			
8	【授業単元】 質的調査の意義と目的 【到達目標】 ・質的調査の特徴と量的調査との違い が説明できる。				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし中テストは15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
それぞれの授業は連関し合っているため、わからない部分はそのままにせず、次回の授業までに必ず消化しておくこと。									

授 業 概 要

科目名	権利擁護を支える法制度	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	上本 昌昭		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	3年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
<ul style="list-style-type: none"> ・意思決定支援とは何か、意思決定支援を行う上で遵守すべき事項について理解している。 ・成年後見制度の利用手続きと後見人等の権限の違いについて説明できる。 ・行政不服審査制度と行政事件訴訟との違いと、その違いに基づく具体的利用手続きについて説明できる。 ・消費者保護における消費者契約法と特定商取引法との違いを説明できる。 									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
大学などで基礎法学の教育に携わり、権利保障や紛争処理の仕組みについて研究する教員が、成年後見制度、相談援助に必要な法制度の知識など、要支援者の権利を擁護できる力を身につけるための授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
日本ソーシャルワーク教育学校連盟編(中央法規) 『最新・社会福祉士養成講座9 権利擁護を支える法制度』					法律は表現が回りくどく理解しづらいので、言葉や表現の理解に努める。また、授業で解いた問題は復習し、確実に解答できるようになっておく。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	科目ガイダンス／意思決定支援とは何か <small>【到達目標】</small> ・なぜ権利擁護や権利救済の知識が必要なかを理解する。 ・「支援付き意思決定」と「代理代行決定」の違いを説明できる。 ・意思決定支援に関する各種指針(ガイドライン)の内容を理解する。				9	権利擁護にかかわる組織や団体および専門職の役割 <small>【到達目標】</small> ・「家事調停」「家事審判」「人事訴訟」の対象事項を判別できる。 ・家庭裁判所、法務局などの組織の役割を説明できる。 ・弁護士、司法書士、社会福祉士などの専門職の役割を説明できる。			
2	要支援者の権利(＝支援者の義務) <small>【到達目標】</small> ・憲法の「個人の尊重」原理と人格権について説明できる。 ・憲法が保障する各種の自由と、それに関連する判例を想起できる。 ・意思決定支援を行う際に課される義務を説明できる。				10	ソーシャルワークと法のかかわり②－行政法① <small>【到達目標】</small> ・行政行為とは何か説明できる。 ・裁量行為と司法審査の関係について理解する。 ・行政救済制度の全体像を理解する。			
3	ソーシャルワークと法のかかわり①－憲法 <small>【到達目標】</small> ・生存権の意義、社会保障制度との関連について説明できる。 ・朝日訴訟と堀木訴訟の違いと最高裁判決の内容を説明できる。 ・「権利能力」「意思能力」「行為能力」の違いを説明できる。				11	ソーシャルワークと法のかかわり③－行政法② <small>【到達目標】</small> ・審査請求とは何か説明できる。 ・不服申立前置主義による行政救済手続きの違いを説明できる。 ・行政事件訴訟の訴訟類型を説明できる。			
4	成年後見制度① <small>【到達目標】</small> ・法定後見と任意後見の相違点について説明できる。 ・成年後見人、保佐人、補助人が有する権限の違いを説明できる。 ・後見人等の「事務」と「義務」の内容について説明できる。				12	ソーシャルワークと法のかかわり④－民法① <small>【到達目標】</small> ・契約の成立要件を理解し、各種の典型契約の特徴を列挙できる。 ・消費者契約法と特定商取引法による救済方法を説明できる。 ・債務不履行、不法行為、国家賠償の各種責任を説明できる。			
5	成年後見制度② <small>【到達目標】</small> ・法定後見の「申立権者」について列挙できる。 ・後見人等の「辞任」と「解任」の各手続きについて説明できる。				13	ソーシャルワークと法のかかわり⑤－民法② <small>【到達目標】</small> ・婚姻、離婚、実子関係、養子縁組などの制度を理解する。 ・扶養義務の範囲と強度の違いを理解する。 ・遺産の法定相続分を計算できる。			
6	成年後見制度③ <small>【到達目標】</small> ・任意後見が開始されるまでの手続きについて説明できる。 ・任意後見受任者、任意後見人、任意後見監督人を説明できる。				14	権利擁護を支える仕組み <small>【到達目標】</small> ・行政救済、民事救済の各種方法と苦情解決の仕組みを想起できる。 ・虐待や暴力を防止する各種法律の概要を説明できる。 ・差別を防止する各種法律の概要を説明できる。			
7	成年後見制度④ <small>【到達目標】</small> ・成年後見制度の今日的課題を列挙できる。 ・『成年後見関係事件の概況』の内容を想起できる。 ・成年後見制度全体を復習し理解を深める。				15	定期試験 <small>【到達目標】</small> ・知識が不足している部分、自分が弱い事項を確認する。 ・定期試験の解答解説を通じて、これまでの学習内容を振り返る。			
8	日常生活自立支援事業と成年後見制度利用支援事業 <small>【到達目標】</small> ・日常生活自立支援事業の利用手続きと事業内容を説明できる。 ・日常生活自立支援事業と成年後見制度の異同を説明できる。 ・成年後見制度利用支援事業の内容を説明できる。				【成績評価の方法と基準】				
科目の評価は、筆記試験で行う。筆記試験は、授業内で扱った内容の理解や定着を確認するものである。 各回の授業で5点満点の小テストを実施する(第8回のみは15点満点)。その上で、成績は、小テストの合計点に1/2を乗じた点数(40点満点:小点数以下は切り上げ)と定期試験(60点満点)を合算した100点満点で、AからFの6段階で評価を行う。									
【履修に当たっての心構え・留意点】									
授業では、ノートはしっかりととり、また、配布したプリントは整理して、後から見直せるようにしておくこと。分からないところは放置せず、理解することを諦めない。									

授 業 概 要

科目名	刑事司法と福祉	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	栗林 正彦		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	3年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
<p>1. 刑事司法の近年の動向と制度の仕組みを説明できる。</p> <p>2. 刑事司法における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割について説明できる。</p> <p>3. 刑事司法の制度に関わる関係機関等の役割について説明ができる。</p> <p>4. 当事者の「生きづらさ」の背景を理解するとともに、専門職としての係わり方の理解を深めていく。</p>									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
<p>近年、刑事司法とかかわる人に様々な支援ニーズがあることが広く認識されるようになった。本授業では、刑事司法における近年の動向とこれを取り巻く社会環境について理解し、「司法と福祉の連携」の必要性和実際の支援を学ぶ。</p> <p>地域包括支援センターで、社会福祉士及び精神保健福祉士また、保護司として地域社会の中で当事者と相対する場合、個々の抱える「生きづらさ」等事例などを織り交ぜながら講義を行う。</p> <p>授業の進め方は講義中心で、第2回目以降は前回までの授業を復習し、次の講義につなげていく。(小テストの実施)</p>									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
「最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座10刑事司法と福祉」(中央法規)一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集					日常から起こり得る事件報道等について意識を傾け、授業で学んでいることと照らし合わせながら理解を深める。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	<p>【授業単元】 ガイダンス、第1章「刑事司法と福祉」総論</p> <p>【到達目標】 1.2.3.4 刑事司法とソーシャルワークの関係を理解する。</p>				9	<p>【授業単元】 第9章 社会内処遇① 更生保護の理念と概念</p> <p>【到達目標】 1.2.3.4 更生保護の歴史を確認しソーシャルワーカーの役割を理解する。</p>			
2	<p>【授業単元】 第2章 社会と犯罪</p> <p>【到達目標】 1.2.3.4 刑事司法とソーシャルワークの関係を理解する。</p>				10	<p>【授業単元】 第10章 社会内処遇② 更生保護の実際</p> <p>【到達目標】 1.2.3.4 更生保護の実際とネットワーク構築を理解する。</p>			
3	<p>【授業単元】 第3章 犯罪原因論と対策</p> <p>【到達目標】 1.2.3.4 犯罪原因論にもとづく対応を理解する。</p>				11	<p>【授業単元】 第11章 多様なニーズを有する犯罪行為者① 精神障害者を対象とした医療観察制度</p> <p>【到達目標】 1.2.3.4 医療観察制度の概要と社会復帰調整官・地域のソーシャルワーカーの役割を理解する。</p>			
4	<p>【授業単元】 第4章 刑罰とは何か</p> <p>【到達目標】 1.2.3.4 刑罰制度の歴史や刑罰の本質と機能を理解する。</p>				12	<p>【授業単元】 第12章 多様なニーズを有する犯罪行為者② 高齢者・障害者による犯罪・非行と福祉</p> <p>【到達目標】 1.2.3.4 高齢者・障害者への司法と福祉の連携による支援を理解する。</p>			
5	<p>【授業単元】 第5章 刑事司法</p> <p>【到達目標】 1.2.3.4 刑事手続きと原則を理解する。</p>				13	<p>【授業単元】 第13章 多様なニーズを有する犯罪行為者③ アディクションを抱える人と刑事司法</p> <p>【到達目標】 1.2.3.4 アディクションと刑事司法におけるソーシャルワークを理解する。</p>			
6	<p>【授業単元】 第6章 少年司法</p> <p>【到達目標】 1.2.3.4 少年法の目的や機能、少年保護手続きの流れを理解する。</p>				14	<p>【授業単元】 第14章 犯罪被害者等支援</p> <p>【到達目標】 1.2.3.4 犯罪被害者等への支援の実際を理解する。</p>			
7	<p>【授業単元】 第7章 施設内処遇① 成人</p> <p>【到達目標】 1.2.3.4 処遇のあり方と福祉専門職の業務内容を理解する。</p>				15	<p>【授業単元】 第15章 コミュニティと刑事司法、まとめ</p> <p>【到達目標】 1.2.3.4 これまでの学びを振り返る。</p>			
8	<p>【授業単元】 第8章 施設内処遇② 少年</p> <p>【到達目標】 1.2.3.4 矯正教育のあり方と社会復帰支援について理解する。</p>				<p>【成績評価の方法と基準】</p> <p>科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。</p> <p>毎回授業の小テストは各回5点満点とし、中テスト15点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。</p>				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
講義中心の授業となると常に受け身になるが、まずは聴く姿勢を培う。(対人援助においては、聴くことが相談の第一歩)また、その際自分自身でも「考える」という習慣を付ける。									

授 業 概 要

科目名	地域福祉と包括的支援体制	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	幾田 こずえ		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	3年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
「地域福祉の基本的な考え方、展開、動向」「地域福祉における主体と対象、住民の主体形成の概念」「地域福祉を推進するための福祉行財政の実施体制と果たす役割」「地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開」「包括的支援体制の考え方と多職種及び多機関協働の意義と実際」「地域生活課題の変化と現状を踏まえた包括的支援体制における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割」などについて理解できるようにする。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
地域活動支援センターで社会福祉士・精神保健福祉士として相談援助業務にあたる傍ら、地域連携による障害者支援を担うソーシャルワーカーについて大学院にて研究を修めた教員が、実践現場や国家試験を視野に入れ、地域福祉についての基礎的な知識と理論に関する授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最新・社会福祉士養成講座6『地域福祉と包括的支援体制』(中央法規出版)					・授業前または授業後に教科書の該当箇所を読み、要点を整理する。 ・小テストや中テストなどで間違えた問題については振り返りを行う。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 第5章 地域を基盤としたソーシャルワークの展開(1) 第1節				9	【授業単元】 第7章 福祉計画の意義と種類、策定と運用(2) 第2節～第3節			
	【到達目標】 地域を基盤としたソーシャルワークの概念を整理し、必要となった背景を把握する。 地域共生社会の実現について理解する。					【到達目標】 地域福祉計画とその他の計画について学ぶ。 計画に含まれている一連の過程を理解する。			
2	【授業単元】 第5章 地域を基盤としたソーシャルワークの展開(2) 第2節				10	【授業単元】 第7章 福祉計画の意義と種類、策定と運用(3) 第3節～第4節			
	【到達目標】 地域福祉における住民の主体形成の意味と意義を理解する。 住民の主体形成を支援するソーシャルワークの視点や方法を理解する。					【到達目標】 福祉計画の計画化、策定の際の主体と過程を学ぶ。 計画化で用いられる方法や技術、留意点について理解する。			
3	【授業単元】 第5章 地域を基盤としたソーシャルワークの展開(3) 第3節				11	【授業単元】 第7章 福祉計画の意義と種類、策定と運用(4) 第4節～第5節			
	【到達目標】 地域を基盤としたソーシャルワークの具体的な展開過程とポイントを学ぶ。					【到達目標】 ニーズの概念や類型を学ぶ。 ニーズ把握の方法・技術、留意点などについて知る。 福祉計画における評価について学ぶ。			
4	【授業単元】 第6章 災害時における複合的かつ総合的包括的な支援体制(1) 第1節				12	【授業単元】 第8章 福祉行財政システム(1) 第1節～第2節			
	【到達目標】 被災者を支援するための法制度について学ぶ。 法制度の変遷や災害時特有の制度や措置について理解する。					【到達目標】 行政の骨格について把握し、福祉行政体制を理解する。 法定受託事務と自治事務について学ぶ。 都道府県における福祉行政体制や組織を把握し、役割について学ぶ。			
5	【授業単元】 第6章 災害時における複合的かつ総合的包括的な支援体制(2) 第1節～第2節				13	【授業単元】 第8章 福祉行財政システム(2) 第3節～第4節			
	【到達目標】 被災者を支援するための法制度について学ぶ。 法制度の変遷や災害時特有の制度や措置について理解する					【到達目標】 市町村における福祉行政体制や組織を把握し、役割について学ぶ。 中央集権から地方自治への流れを理解し、地方分権の意義と改革の流れを把握する。			
6	【授業単元】 第6章 災害時における複合的かつ総合的包括的な支援体制(3) 第3節				14	【授業単元】 第8章 福祉行財政システム(3) 第5節～第6節			
	【到達目標】 被災者が抱える多様なニーズについて学ぶ。 被災者の状態を踏まえた包括的な支援や平時からの取り組みの重要性について理解する。					【到達目標】 社会福祉の実施体制について把握し、専門機関や専門職について理解する。 国、地方、民間の財源について学ぶ。			
7	【授業単元】 第7章 福祉計画の意義と種類、策定と運用(1) 第1節～第2節				15	【授業単元】 後期の振り返り、定期試験			
	【到達目標】 福祉計画の基礎的視点を学ぶ。 日本の福祉制度の展開、地域福祉計画の歴史の変遷について理解する。					【到達目標】 福祉計画、福祉行財政システムについてを中心に後期の内容を振り返り、理解を深める。			
8	【授業単元】 中間振り返り、中テスト				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 地域を基盤としたソーシャルワークの展開、災害時における支援体制について振り返り、理解を				科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
日常生活において地域住民の一員であるという意識を持ち、特に自身の居住地									

授 業 概 要

科目名	福祉サービスの組織と経営	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	伊藤 亮太		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	3年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
福祉サービスの組織と経営を理論、実践から正しく理解し、臨床において活躍できる人材養成を行う。また、社会福祉士国家取得対策としてその知識をまかなう。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
研究だけではなく、実務双方からの授業を行い、資格試験対策だけではなく、その後の実務でも生かせるよう工夫していく。全体を通して、福祉サービスの組織と経営の制度を理解し、実践の場での利用できる制度まで、ご自身にとって生ね役立つ内容を教授していく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最新版「福祉サービスの組織と経営」(中央法規)					授業終了後の復習を怠らないこと。社会福祉に関連する組織や経営のニュースなど日ごろから新聞等を用いて注目しておくこと。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 第1章 福祉サービスに係る組織や団体の概要 第1節 福祉サービスを提供する組織(特に社会福祉法人、特定非営利活動法人) 【到達目標】 福祉サービスを提供する組織や管理について理解し、説明できるようになる。法人の基本形態を理解する。その中でも社会福祉法人の役割、形態を説明できるようになる。				9	【授業単元】 第3章 福祉サービス提供組織の経営と実際 第5節 会計管理と財務管理 【到達目標】 社会福祉法人と企業では、財務管理の目的が異なることを理解する。貸借対照表、事業活動計算書、資金収支計算書の違いを理解し、説明できるようになる。			
2	【授業単元】 第1章 福祉サービスに係る組織や団体の概要 第1節 福祉サービスを提供する組織(特に医療法人、営利法人) 第2節 福祉サービスの沿革と概況 【到達目標】 法人の基本形態を理解する。その中でも医療法人や営利法人の役割、形態を説明できるようになる。				10	【授業単元】 第3章 福祉サービス提供組織の経営と実際 第5節 会計管理と財務管理 第4章 福祉人材のマネジメント 【到達目標】 貸借対照表、事業活動計算書、資金収支計算書の違いを理解し、説明できるようになる。人材マネジメントの基本的内容を知り、福祉人材マネジメントの特性を理解、説明できるようになる。			
3	【授業単元】 第1章 福祉サービスに係る組織や団体の概要 第2節 福祉サービスの沿革と概況 第3節 組織間連携と促進 【到達目標】 福祉サービスの沿革を確認し、これまでの経緯を把握する。組織間連携とは何かを理解し、その意義について説明できるようになる。				11	【授業単元】 第4章 福祉人材のマネジメント 第1節 福祉人材マネジメント、第2節 福祉人材の育成 【到達目標】 福祉人材の必要性についての理解を深める。組織における人材育成の仕組みと方法を理解し、			
4	【授業単元】 第3節 組織間連携と促進 第2章 福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論 第1節 組織運営に関する基礎理論など 【到達目標】 福祉分野における組織の特徴と特異性を学び、ご自身で説明できるようになる。				12	【授業単元】 第4章 福祉人材のマネジメント 第3節 働きやすい労働環境の整備、問題演習 【到達目標】 福祉人材にとって働きやすい労働環境とは何かを知り、説明できるようになる。労務管理の基本を理解する。			
5	【授業単元】 第2章 福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論 第2節 集団の力学に関する基礎理論 第3節 リーダーシップに関する基礎理論 【到達目標】 集団の概念、および個人の集合を超えた集団独特の特性を理解する。リーダーシップ論を理解し、実務でも役立つようになる。				13	【授業単元】 予想問題・過去問題による演習 【到達目標】 五肢択一式の問題をもとに、国家試験対策を行う。試験で解けるようになるのはもちろんのこと、その後の私生活、仕事においても活かせるような演習を行っていく。			
6	【授業単元】 第3章 福祉サービス提供組織の経営と実際 第1節 経営体制 第2節 福祉サービス提供組織のコンプライアンスとガバナンス 【到達目標】 社会福祉法人と理事等・株式会社と取締役等の関係を理解する。コンプライアンス、ガバナンスの意味を理解し、実務でも役立つようになる。				14	【授業単元】 予想問題・過去問題による演習 【到達目標】 五肢択一式の問題をもとに、国家試験対策を行う。試験で解けるようになるのはもちろんのこと、その後の私生活、仕事においても活かせるような演習を行っていく。			
7	【授業単元】 第3章 福祉サービス提供組織の経営と実際 第3節 適切な福祉サービスの経営管理 【到達目標】 福祉経営の特質は何かを理解する。経営戦略やマーケティングなどの用語を理解し、使えるようになる。				15	【授業単元】 定期試験および解答解説 【到達目標】 定期試験にて合格点に到達する。解答解説を聞き、間違えたところを確認、その後の模試や本試験で活かせるようになる。			
8	【授業単元】 第3章 福祉サービス提供組織の経営と実際 第3節 適切な福祉サービスの経営管理 第4節 情報管理 【到達目標】 福祉経営における事例を通し、自分自身が理想とする福祉経営の姿を考察できるようになる。個人情報保護をはじめとする情報の管理と運営について理解し、実務でも役立つようになる。				【成績評価の方法と基準】 定期試験問題をもとに成績評価を行う。問題は国家試験と同レベルとし、総合評点が60～69点・・・D 70～79点・・・C 80～89点・・・B 90～100点・・・Aとする。 59点以下はFとし、出席不良はEとする。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
日頃から組織経営に関心を持ち、新聞やニュース、雑誌などで最新情報を把握しておくこと。									

授 業 概 要

科目名	ソーシャルワーク演習(社会専門)Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	野口和道		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	3年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
1. 事例を通し支援の体系的な理解をすることができる。 2. 事例において何が起きているかを把握し、支援の指針をつくることことができる。 3. 自分の言葉でクライアントに説明することができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
高齢者分野で介護職・相談職の経験や生活困窮者の炊き出し支援に携わる。現在は、低所得世帯の児童に対して学習支援や相談支援を行っている。授業は、グループワークを中心に行いソーシャルワーカーの基礎的素養を養う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
授業時に配布する資料、タブレット(MicrosoftTeams)					地域共生社会の実現に向けて、急速かつさまざまな変化が生じる社会、多様な社会と価値観に対する柔軟性を意識化する。幅広い分野の情報に関心をもち、多角的な視点で考える。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 導入ガイダンス 現在の自分から望ましい自身の姿を想像し、目標を立てる 【到達目標】 ・現在の自分を主観的に理解することができる ・どのようなことがやりたいのか、自分の得意と不得意なことは何かを言語化することができる ・興味や関心をもって積極的に取り組みたい内容を言語化し、他者に伝えることができる				9	【授業単元】 児童支援～事例①～ 【到達目標】 事例を通し、本人や環境で何が起きているのかを理解することができる。			
2	【授業単元】 高齢者支援～事例①～ 【到達目標】 事例を通し、本人や環境で何が起きているのかを理解することができる。				10	【授業単元】 児童支援～事例②～ 【到達目標】 児童やその家族に対する体系的な支援を理解することができる。			
3	【授業単元】 高齢者支援～事例②～ 【到達目標】 高齢者に対する体系的な支援を理解することができる。				11	【授業単元】 児童支援～事例③～ 【到達目標】 支援の方向性を個人・グループでまとめることができる。			
4	【授業単元】 高齢者支援～事例③～ 【到達目標】 支援の方向性を個人・グループでまとめることができる。				12	【授業単元】 障害者支援～事例①～ 【到達目標】 事例を通し、本人や環境で何が起きているのかを理解することができる。			
5	【授業単元】 低所得支援～事例①～ 【到達目標】 事例を通し、本人や環境で何が起きているのかを理解することができる。				13	【授業単元】 障害者支援～事例②～ 【到達目標】 障害者に対する体系的な支援を理解することができる。			
6	【授業単元】 低所得支援～事例②～ 【到達目標】 低所得者に対する体系的な支援を理解することができる。				14	【授業単元】 障害者支援～事例③～ 【到達目標】 支援の方向性を個人・グループでまとめることができる。			
7	【授業単元】 低所得支援～事例③～ 【到達目標】 支援の方向性を個人・グループでまとめることができる。				15	【授業単元】 定期試験 解説および前期学習内容の振り返り(まとめ) 【到達目標】 ・前期授業の学習内容から出題 ・定期試験解説、前期学習目標の達成度を振り返り、後期学習に向けた目標設定ができる			
8	【授業単元】 中テスト(第1～7回までの授業範囲を出題対象とする) 【到達目標】 ソーシャルワーカーとして支援をする方向性を自分の言葉で説明できるようになる。				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験(記述形式含む)で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
毎授業ごと、科目シラバスから自身の学びのポイントを明確化しましょう。教室の中は安心安全な場として、他者の意見を聴き、話してください。否定せず広い視野で受け止め互いを尊重し、思考を繰り返し、自分の成長に活かしてください。									

授 業 概 要

科目名	ソーシャルワーク実習指導（社会）	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	学科教員				
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	3年	授業の 方法	演習	単位数	1	単位	総時間数	30	時間
【授業を通じての到達目標】											
<p>① ソーシャルワーク実習の意義について理解する。</p> <p>② 社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養う。</p> <p>③ ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を習得する。</p> <p>④ 実習を振り返り、実習で得た具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる総合的な能力を涵養する。</p>											
【学習内容】（どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
社会福祉士としての実務経験が5年以上もしくは実習教員講習会を修了した教員が、集団および個別指導にて実習先における事前理解や実習終了後の現場体験を踏まえた総括等をおこなう。											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
実習要項 社会福祉士指定科目 各教科書						実習オリエンテーションに参加するとともに、実習先についての事前学習等、実習に向けた各自の学習が必要である。					
授業計画											
<p>① 実習及び実習指導の意義（スーパービジョン含む。）</p> <p>② 多様な施設や事業所における現場体験学習や見学実習</p> <p>③ 実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む。）と施設・機関、地域社会等に関する基本的な理解</p> <p>④ 実習先で関わる他の職種の専門性や業務に関する基本的な理解</p> <p>⑤ 実習先で必要とされるソーシャルワークの価値規範と倫理・知識及び技術に関する理解</p> <p>⑥ 実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解</p> <p>⑦ 実習記録への記録内容及び記録方法に関する理解</p> <p>⑧ 実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成及び実習後の評価</p> <p>⑨ 巡回指導</p> <p>⑩ 実習体験や実習記録を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成</p> <p>⑪ 実習の評価及び全体総括会</p>											
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】					
ソーシャルワーカーとしてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むための心構えが求められる。						実習前試験(100点満点)の結果をふまえ、A～Fの6段階で評価する。					

授 業 概 要

科目名	ソーシャルワーク実習（社会）	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	学科教員				
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	3年	授業の 方法	実習	単位数	1	単位	総時間数	60	時間
【授業を通じての到達目標】											
① ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養う。 ② 支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）について把握する。 ③ 生活上の課題（ニーズ）に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行う。 ④ 施設・機関等が地域社会の中で果たす役割を実践的に理解する。 ⑤ 総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。											
【学習内容】（どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
社会福祉士としての実務経験が3年以上かつ実習指導者講習会を修了した実習担当者が、相談援助実習担当教員の巡回指導と合わせ、実習中の取り組みについてフィードバックとスーパービジョンを行うなかで、実践を通して学んだ知識や経験を理論としてまとめる能力の涵養を行う。											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
実習要項 社会福祉士指定科目 各教科書						実習時間以外も実習日誌の記入や実習課題等に取り組むとともに、既習内容を復習し実習に生かしていく姿勢が必要である。					
授業計画											
① 利用者やその関係者（家族・親族、友人等）、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成 ② 利用者やその関係者（家族・親族、友人等）との援助関係の形成 ③ 利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）の把握、支援計画の作成と実施及び評価 ④ 利用者やその関係者（家族・親族、友人等）への権利擁護活動とその評価 ⑤ 多職種連携及びチームアプローチの実践的理解 ⑥ 当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけ ⑦ 地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解 ⑧ 施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際（チームマネジメントや人材管理の理解を含む。） ⑨ 社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任の理解 ⑩ ソーシャルワーク実践に求められる以下の技術の実践的理解 ・アウトリーチ ・ネットワークキング ・コーディネーション ・ネゴシエーション ・ファシリテーション ・プレゼンテーション ・ソーシャルアクション											
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】					
ソーシャルワーカーとしてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むとともに、主体的な姿勢で取り組むことが求められる。						実習指導者による評価、実習巡回教員による評価、自己評価を換算し、A～Fの6段階で評価する。					